未定稿

「旧吉田茂邸再建検討状況説明会」記録

平成 23 年 2 月 19 日（土）13:00～15:00　大磯小学校体育館
平成 23 年 2 月 20 日（日）13:00～15:00　国府小学校体育館

写真　吉岡氏所蔵

「旧吉田茂邸再建検討状況説明会」

○　参加者

３８０名

○　次　第

日　時　：　平成 23 年 2 月 19 日（土）13:00～15:00・・・・・　Ｐ　３

会　場　：　大磯小学校体育館

日　時　：　平成 23 年 2 月 20 日（日）13:00～15:00・・・・・　Ｐ３４

会　場　：　国府小学校体育館

13:00　開会

あいさつ

大磯町長　中﨑久雄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ ３，Ｐ３４

大磯町議会議長　山田喜一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ ６，Ｐ３６

大磯町旧吉田茂邸再建検討委員会委員長　中島源吾・・・・・Ｐ ９，Ｐ３８

13:25　吉田茂の紹介

中島源吾（大磯町旧吉田茂邸再建検討委員会委員長）・・・・・Ｐ１０，Ｐ３９

13:45　旧吉田茂邸の現況報告

浅羽義里（神奈川県平塚土木事務所長）・・・・・・・・・・・・Ｐ１７，Ｐ４５

14:55　再建検討状況の説明

相田輝幸（大磯町政策課長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１９，Ｐ４７

14:20　再建の意義とコンセプト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２５，Ｐ５３

中﨑久雄（大磯町長）

14:30　意見交換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２７，Ｐ５５

15:00　閉　会

旧吉田茂邸再建検討状況説明会結果概要

平成 23 年 2 月 19 日（土）13:00～15:00 大磯小学校体育館において開催した「旧吉田茂邸再建検討状況説明会」の概要は次のとおりでした。

参加者：２００名（大磯小学校体育館）

（中﨑町長あいさつ）

みなさま、こんにちは。

本当にお寒い中、お集まりいただき感謝申し上げます。私は、このたび町長に就任した中崎久雄であります。たぶん、この髭面もみなさまご存知のことと思います。

早いもので、もう就任して２ヶ月、昨日から議会も始まりました。その中でみなさまに申し上げます。この町は一つになって進んでいかなくてはならない。みなさまとともに情報を公開していくこと、これは、公約の中で何度もお約束してまいりました。今一番、心がけなくてはならないのは、町の職員も本当に縦割りではなく、一つになって物事に当たる、そういうことであります。

今日、この会場を設定した町の職員達は、自分達がある１つの所属員というだけではなく、複数の課の方、自分達の知恵を出し合い、郷土資料館から沢山の貴重な資料も借りてまいりました。後ほどご覧ください。お寒い中、みなさまがお越しいただくことを、沢山の人に来ていただけるという希望を持って 800 脚のイスを並べましたが、本当にたくさんの方に本日お越しいただき、感謝申し上げます。本日は、旧吉田邸の再建検討状況を説明していきたいと思います。

スライドをご覧下さい。吉田茂さんの本当に素晴らしいお顔であります。日本の敗戦後、今日まで引っ張ってきました、その基礎を築かれた方であります。よく冗談に人を食った顔などと言われたそうでありますが、戦後の日本を生み、私たちに多くの勇気と力を与えてくださった、その方が大磯にお住まいでありました。

私たちは、平成２１年３月、惜しくも、吉田茂さんがお住まいだった吉田邸は焼けてしまいましたが、今ここに、県の方々と相談し、力を一緒に、この吉田邸の再建に向けて、大磯町が一つにならなくてはいけない、そういう思いで進んでまいりました。前町長の三好さんが本当に苦労され、募金活動を始められたのであります。

明治２２年４月、大磯町が生まれてから１２０年あまりの年月が経過しております。この新聞は、１９８８年の神奈川新聞、大磯町町政施行１００年を記して掲載された、空からの写真であります。大磯港を中心にして映っております。もうセピア色になりました新聞でありますが、町長室にございました。みなさんご存知でしょうか。１１４年の歴史を持つ大磯であります。世界に誇れる大磯町であります。

今、旧吉田茂邸再建基金には、全国から吉田さんを慕い、そしてなんとか、その再建をとの呼びかけに対して、金額がいまだ６,０００万円足らず…ではない。６,０００万円も集まっているのであります。

本日私は、吉田邸の再建に向け、みなさまにこれまでの進捗状況をご説明し、今一歩、この再建を確実にするために、県の方々にも本日お越しいただきました。そして、みなさまに情報公開を申し上げ、今一度、再建のためのお力をいただきたい。そういう思いで、本日の説明会を執り行うわけであります。昭和２９年国府町との合併もございましたが、この町にとって最大の魅力である美しい自然と、由緒ある歴史、そして、文化。こういうものを大切にし、であるがゆえに、人々は大磯を愛し、多くの方がこの大磯に移り住んでおります。

また、温暖な気候と住民の方々の教育、文化に対する深い心を、教育の町としてみなさまが愛しておられるのも事実であります。

まちづくりは決して行政だけで行えるものはございません。町民のみなさまと一緒になって、共に考え、今何ができるか、何が必要であるかということを考えていく。それが町の力となります。

そして、今まで未解決の問題を解決していく。その第一歩が、吉田邸の再建に向かう事なのであります。どうぞご理解、ご協力をいただきたいと思っています。

本日は、旧吉田邸再建検討状況説明会と銘打ちまして、みなさまにお話をさせていただくこととなりました。

スライドの記事について少し、ご説明申しあげますが、吉田茂氏は、伊藤博文、山縣有朋、大隈重信、西園寺公望、寺内正毅、原敬、加藤高明と共に、わが町に別荘あるいは住居を構えられた歴代総理の方々であります。

しかし何故みなさん、歴代の総理は、この大磯にお住まいになったのでしょうか。大磯に魅力があったからです。大磯が文化を考え、教育を考え、心静かに日本の特性を考える地であったからこそであります。

私達はこの歴代の総理が、愛された町の歴史を、私達の子供達、孫たちに残し、正しく伝えていかねばなりません。惜しくも焼けてしまった吉田邸、まったく元どおりはまいりませんが、その思い、この志、その力を、大磯の誇りとしてつくろうではありませんか。

町には、歴史的にも文化にも貴重な財産があります。
旧吉田邸を再建したいという思いで、平成２１年７月から募金活動に取り組んでおります。後ほど、政策課長から再建にあたり、みなさまにお話を申し上げます。

ここで１つみなさんにお伝えしたい、明るいニュースがございます。実は、再建に向けて、それは、みなさまはご存知だと思いますが、財団法人吉田茂国際基金という、吉田茂さんの国際親善に関する功績を記念した、教育、学術、文化の向上を目的とする財団法人がございます。東京にございます。今年の３月で法人の解散が予定されております。そこで、これまで財団が持っていました、蔣介石から吉田茂さんの誕生日に贈られたという「額」、

もしくは吉田茂邸の図案が書かれた和食器、吉田茂氏の蔵書をはじめとする政治の関係資料、また財産を大磯町にお譲りいただける。現在、財団において、所管する省庁との調整を進めていると聞いております。そして、現在は大臣の認可を待っているという状況でありますが、財産の清算時期は、今年の６月頃になると聞いております。これを、これが確定しますと、予定では２億７千数百万円。２億７千数百万円という、たいへん大きな金額の寄附が見込まれております。そして、このうち２億円程度は、再建費用として用意してもいいであろうという内々の言葉をいただいております。

吉田邸を何とか再建しようと、町民の方々の再建検討委員会にいろいろ考えてきていただいております。もちろん委員長の中島さんからも後ほどお話をしていただきますけれども、６,０００万弱の大変ありがたいお金を、全国からいただきました。そこに、財団法人吉田茂国際基金の方から今予定されている寄附の一部として、２億円を再建に用いて良い。今一歩、我々は吉田邸の再建に向けて今日をもってみなさんにお集まりいただき、新しく、再建のために、この形を、空間を、その精神を、後世のために伝えるためにも、是非、吉田邸がある姿は、大磯城山公園の中、今焼けました跡地に必要なのであります。それをみなさま、本日は、ご説明をしてご理解をいただきたく、このようにお集まりいただきました。

最後に七賢堂というのが吉田邸の中にございます。こちらの会場内に大変貴重な、七賢堂に祀られているお写真等の収蔵物を持ってまいりました。お帰りの際には是非ともこれをご覧になってお帰りいただきたい、このように思います。

大変長い挨拶になってしまいました。私は、このようにお寒い中にもかかわらず、本当にみなさまにお越しいただけるか、失礼ながら心配しておりました。しかし、お寒い中にもかかわらず、本当に真剣になって本日、吉田邸の話を聞いてやろうという気持ちでお越しいただいたみなさまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

（山田議長あいさつ）

みなさんこんにちは。議長の山田です。寒いところ、吉田邸再建の報告会に参加していただきましてどうもありがとうございます。

私たち議会といたしましても、この吉田邸の再建に対しては、４年前でしたか、署名活動などを積極的に進めまして、５万名の署名のうち約１割を我々議会が集めました。そういうことで、県、さらには国の方にも要望もしましたし、近くの市町村の議会にも呼びかけて、これは大磯だけの問題ではない、県、さらには国にとっても重要な歴史的建造物でもあるし、吉田さんの、その功績を今噛み締めていくことが、これからの我々の人生にとっても、町の行政にとっても重要なんだということを訴えて進めてきました。

吉田さんといいますと、町民のみなさんからみると、特に若い人から見ると良くわからないという方が非常に多い。こういうような現状の中で私達はこれをオール大磯で取り組んでいくためには、この吉田さんの功績をもう１度明らかにしながら、そして吉田邸そのものをもう一度ですね、よく見ていただいて、その価値というものをお互いに共有していただく。そういう中から、この吉田邸の再建、さらには燃えた後におきましても、こういうことがますます重要になってきている、こういうようなことを町のほうに呼びかけながら、この問題について取り組んできました。

しかし、残念ながら、こういう具体的な燃えた後の再建問題をどのようにするのかという具体的なイメージがどうしてもハッキリしない。こういうような状況の中で、私たちとしてはこれを、やはり、町全体で、町民全体が重要な再建案だと、町にとっての観光拠点としても、そういうことに活用していくために、大いに納得のうえで、全員で取り組めるような体制をとっていこうではないかということを強く呼びかけてきたところであります。

そういう中で、今回、このような報告会と、さらには意見交換会が開かれたということは非常に意味のあることだと思います。これから、ただ、歴史的建造物、吉田さんは今までの功績があるんだということを言うのではなくて実際に、吉田さんはどういうことをしたのか、そして、吉田邸の価値というものはどういうものなのかというものを１つずつはっきりさせながらですね、我々、町民全体がそういうものについて一歩前に進んでいく。こういうような取り組みが僕は重要ではないかという風に思っております。

議会でもいろいろな意見がありまして、大いに議論しました。しかし我々議員としても再建については反対する方はほとんどおりません。そういう中でどういうように再建していくのか。こういうようなことを具体的に、我々自身が、イメージがもてるような、そういうような再建案というものをハッキリさせていこうじゃないか、それと同時に吉田さんの功績というものを知らない人がかなりいるので、そういうものを、歴史的にももう一度再検証していく。こういうようなものが必要ではないかということで私達は取り組んできたところでございます。

現在、そういう意味で中﨑町長が一歩前へ進んでですね、こういう問題についての町民とこういうような集会を開こう、意見交換をやろうということで一歩前に進んできたこと

については、大いに評価をしたいと思います。それからこれを機会に、我々自身が具体的な再建案を、大磯町民の要望を踏まえながら、そして吉田邸再建の意義を十分再現するような形にし、県の方へも要請し、国のほうにも要望してですね、これをやはり、大磯町だけでなく、県・国を挙げて、重要な、歴史的な大事な再建の内容なんだということを大いに知らしていくことが必要ではないかと思います。

吉田さんは、ご存知だと思いますけれども、３歳の時に、高知から養子で大磯に来ている。そして、６４歳で駐英大使を辞めるまで、ほとんど大磯には居られませんでした。外国のほうをずっとまわっていたということ、そして６４歳以降亡くなる昭和４２年までずっと大磯にいられたわけですけれども、そういう意味では大磯にものすごく、３歳からですね、籍としては、８９歳までですから、約８０年近く大磯にいられたわけですが、そのこと自身もよく私達も調べてみて分かる話で、みなさんの中ではなかなか理解できなかったという人もいると思います。戦争が始まってからは、不毛と言われた陸軍を中心とした第二次世界大戦のそういうものに対しては早く終結をすべきだということを外交官を辞めてからものすごい活動をしました。

そして、昭和２０年の４月に逮捕されて４ヶ月間拘留されまして、その反対の意思をそういう形で断固貫いたことが戦後の政治のですね２１年ですか、第一次吉田内閣ということで総理大臣になった。そして、その時は、年を僕らも数えてみると、６８歳なんですね。その時にあの、政治の大混乱の中で、吉田さんが総理大臣になって、そして憲法がすぐその年に制定され、そして、それをそういう状況の中でこれからの日本の行く末を見据えた上でまず独立が一番大事なんだ。ということでサンフランシスコ平和条約を昭和２６年に、いわゆる講和条約を結んで、日本の独立を勝ち取って、そのサンフランシスコ平和条約については全面講和ではないので、いろいろ意見があったそうです。そういう中でも、吉田さんは、敗戦をしたということを受けて、いろいろ不満が出ても、まず独立して実力をつけることなんだ。日本が経済復興をして実力をつけてから、そういうような、色んな条約の不平等さというものを克服していけばいいんじゃないか。こういうような、ものすごい、先を見通した現実的な判断を元にですね、頑固に強引に内閣を指導し、そして今の日本の基礎を築き上げたというように言われています。

そして戦争をやめるためにも憲法第９条の戦争放棄というものを利用して、あれですか、朝鮮戦争が昭和５０年に始まったんですけれども、そういう時は、僕は新聞で資料を見ましたら、アメリカのほうから３０万の出兵をしろと、朝鮮への派兵の要求がきたところですけれど、平和憲法の第９条を逆手にとってそれには一切応じなかった。

独立が日本にとって一番重要なんだということで、アメリカとのやりとりも頑固一徹、そういうような筋を通して、今の日本の復興をですね、築いたと思います。色々、歴史的に見ればいろいろなものがあるかもしれませんけど、吉田さんのそういう１つの決断と実行があったからこそ、現在の日本のこのような発展があったということを考えたときに、また、大磯の名誉町民に昭和４１年になっております。そういう意味で吉田さんという人

を我々が大事にし、世界に対しても、日本全国に対しても発信をですね、町民自身が我々の仲間として、我々が誇れるような、そして、そういうものを語っていくためにも、旧吉田茂邸再建をしなければならないではないかなというふうにと思っております。議会の中でもそういうような、議論を通して、今町長がいわれましたように、大磯一丸となって、この再建問題を、みなさんの要望を実現しながら、そして、大磯のこれからの発展につながるような、そういうような再建を目指して努力していくことをあいさつの際に述べまして終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

（中島委員長あいさつ）

みなさまこんにちは。中島でございます。

既に昨年、みなさまの地区のほうにも、地区毎の説明会をいたしまして、まわらせていただいたわけでございますが、改めて、こうして沢山の方々がお集まりいただきまして、大変ありがたく思っております。あいさつの中で吉田さんの話が出ましたが、吉田邸を再建したいのは何故かといいますと、やはり、あの場所は、何回にもわたって戦後の日本の政治の舞台となった場所、西側の日本庭園の方から見える写真のスライドが出ておりますけど、あれがいわゆる再建をして後世に伝える価値のあるものでございます。

まず一言。この場所で、吉田さんという、伊藤博文公以後、今日の菅さんまで、何代もの総理大臣いらっしゃいますけども、その中でも、トップ３に入る、あるいは３位くらいに入る大人物であります。その方が住んでおったというだけではなくて、その後もずっと、戦後の今まで、私達が今日おります、この日本という国の中心であった、大磯のあの邸宅が日本の中心地だったと、そういうところでございます。沖縄の返還はここで決まったと言われております。

また、さまざまな外国の要人の方も、旧吉田茂邸を訪れられ、後には日米の首脳会談、カーター・大平会談を開かれた場所でございます。それをまた、後世の人々が目撃できるように、ぜひ吉田邸が、完成することを心から皆様のお力をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。

（吉田茂の紹介／大磯町旧吉田茂邸再建検討委員会委員長　中島源吾）

吉田茂さんという方、ご存知の方も沢山いらっしゃると思いますが、ちょっと振り返らせていただきたいと思います。こちらのスライドは、皇居の北の丸公園にある吉田さんの銅像ですけれども、大磯の旧吉田茂邸にもございまして、太平洋を睨んでおります。先ほど申しましたように、吉田さんという方は、いうまでもなく、内閣総理大臣を務められたわけでありますが、数多く総理大臣を経験された方がおりますが、ただ総理大臣を務められたという程度のものではなく、本当に私たちの一人一人に、今ここにある日本というものの元を築いた方でございました。もう少し具体的に言えば、サンフランシスコ平和条約を結ばれた方でした。１９６７年、昭和４２年１０月２０日に８９歳で、大磯の吉田邸でお亡くなりになりました。国葬が行われました。戦後初の、昭和に入って２人目の国葬だということです。当日、大磯町では約１万５，０００人の方がお見送りされたと伝えられております。私も、大学生でございましたから、お見送りをした記憶がございます。当日は、本当に朝から晩まで、テレビでこの事が繰り返されて、国中に大変大きな衝撃を与えました。亡くなられたときには最高位の勲章を授かりました。多分、その次に衝撃を与えたのは、この間の火事だったと思います。朝から晩までニュースでやっておりました。

総理大臣だったと言ってもそれがどうした、と思われる方もあるかも知れませんが、吉田茂という方、生まれたのは西南戦争の翌年の明治１１年、１８７８年ということです。お父さんは土佐の武士だった方で、東京で生まれています。３歳の時。お父さんの親友の吉田健三さんというビジネスをやっている方のところに養子に出されました。ところで、実のお父さんの竹内綱さんは、何と吉田さんが生まれたときには家にいなかった。旅に出ていたというのではなくて、刑務所に入っていたのです。この方は熱心な倒幕の志士だったのですが、西南戦争の時に、西郷さん側に加担したのではないかと疑われて捕まったわけであります。

そして、吉田さんにとって、ある意味で良かった事といいますと、吉田健三さんという方、奥様は江戸時代の儒学者の血を引いております士子（ことこ）さんという方で、ものすごく厳格なお母さんだったらしいですね。吉田さんはガチガチ漢学を学ばされ、後にこれも吉田さんの教養の一部になるわけですが、小さい頃はどうも家では寂しかったらしいですね。と申しますのは、お母さんは非常に厳しいのですけれども、子どもに対する愛情というものはなかったと、ですから、よく友達に、僕は親の愛というものを知らないとこぼしていたそうです。

吉田さんが１１歳の時に、吉田健三さんが、この方は当時の大きな英国系の商社、ジャーディン・マセソン商会の支配人であったわけですけれども、一代で、今でいうと５０億円とも６０億円ともいわれる富を築いた方ですが、突然亡くなられてしまいます。当時の民法では、継承者は吉田茂さんしかおられませんでしたので、数十億円に相当する財産を１１歳の坊やが全部継承したわけです。１０代にして億万長者に、これが吉田さんの一つの骨格を成しているところかなと思います。つまりお金に不自由はしなかったということ

です。そして何となく色々な学校を渡り歩きますが、あまり自分の将来を真剣に考えなかったようです。しかし、学習院大学に行きまして、この大学、戦前の話ですが、周りの友達のみんなが外交官を目指していたので、何となく俺もやろうかと思うようになってきた。そんな折に、学習院大学の大学部が、当時の学習院の院長さんが亡くなったということを機会に廃止されてしまいます。吉田さんは、学習院大学の大学部から放り出されまして、東京帝国大学の法科に編入されております。まあ、お金に不自由する身でなかったので、２８歳まで学生生活を送っていました。うらやましいですね。

そして外交官試験に受かったわけですけれども、どうも一生懸命勉強しなかったらしくて、成績はあまり良くなかったようです。そして研修を受けて、最初は中国大陸に渡ったわけであります。中国の中で奉天だとか天津だとかいろいろな所の総領事館で勤務いたします。このことが、後年、日本の舵取りをする立場に立った時に非常に役に立つことになりました。何故かと申しますと、当時の中国大陸というのは、今のＧＤＰ世界第２位の大国とは全く違いまして、列強が入り浸り、茫漠たる大地に数限りない民衆がうろうろしていて、政府が３つにも４つにも分かれている。地域によってお金も違うし税金も違う。いろいろな人が入り乱れている。そういう国でありました。中国は大きいですから、何とか影響力を及ぼしたいということで、大国間の激しい縄張り争いが繰り広げられています。ご存知の方も多いと思いますが、上海の方など主だったところはみんなヨーロッパが、大国が占領していて、日本も後から入ってくるわけですけれども、つまり、何処にいても、陰謀が渦巻く、今で言うとちょっとした映画になりそうな、これはまあ、中国の人達には迷惑千万なことでしょうけれども、そういう中で吉田さんは外交官の経験を積み、大勢あるいは大局を見る目を養っていったのです。これは大学では教えてくれませんので、吉田さんはこういう実践の場で学ばれたということです。

外交官になった後に、実は外務大臣になり損ないまして、駐英大使になった経緯があるのです。何で外務大臣になり損なったかと言いますと、これが実は吉田さんの、非常に一筋で頑ななところ、私なんかはとても及ばないと思うのですが、当時の政府が進めていた政策に対して、一外交官であるにもかかわらず、政府がやろうとしている事に猛反対します。最初は、満州事変が起こりました時に、日本は当時の国際連盟の有力な会員だったわけですが、みなさまご承知のとおり脱退してしまう。これに対して吉田さんは、そんな事をしたら日本が孤立化してやがて大変な不幸な事になると強く主張したのです。次は、ドイツと同盟を結ぶ話が出てくると、絶対に駄目だと本省に意見具申したのです。何故かというと、当時、地球儀をぐるりと回しますと、どこを見ても必ず英国領がある。大英帝国がものすごい勢力を持っていたのです。そのように世界を制圧している国と対峙してしまうということが、日本にとってどんな意味があるのかと。ドイツというのは、第１次世界大戦の敗戦国なのですが、一見景気が良いように見えたのですね。ただし、冷静によく考えて見ると、世界中に勢力を持ったイギリスやアメリカと敵対することは日本にとって得策ではないという事を強硬に主張したわけです。こういう態度を示していたことよって、

当時日本をリードしていた陸軍には“危険分子”とさえ見え、外務大臣などとんでもないということになり、広田首相の計らいで駐英大使となったのです。しかしながら、このことが、日本が戦争に負けた後、吉田さんに風が吹く理由ともなるわけであります。筋金入りの人であるという。昨日はドイツと仲良くして明日はアメリカと仲良くしようなどという人は沢山いらしたわけですけれども、そうではない人物ということで注目されることになったわけでございます。

吉田さんは、戦争にならないように努力を重ねました。日本が戦争にだんだん引っ張られてしまうのを何とか食い止めようとされたのですが、これは、みなさまもお分かりのように、一外交官が出来ることではなかった。こうした不運な時代があって、外交官としては駐英大使を最後にして５７歳で退官するのですが、退官した後も、アメリカの駐日大使グルーさんとの仲を通して、日本はそんなに変な国ではないと各国代表など、各方面に必死に説いてまわったのです。これは、吉田さんの奥様、明治維新の元勲でございます大久保利通公の次男の牧野伸顕さんという方の娘さんで、雪子さんという方ですが、不幸にもご病気になられまして、癌でございますが、食事も喉を通らないという時でも、このアメリカの駐日大使の奥様が作られたスープだけは飲んでいたということです。そういう関係を吉田さんは知っていて大事にしていた。そのために、戦争が始まったときに、グルーさんはその後国務大臣なども務めていますが、アメリカに帰ると、必死で全米各地をまわり、日本人への理解を訴えています。当時は真珠湾を日本が奇襲した直後ですから、大方のアメリカ人は日本などという国は真っ平らにしてしまえという勢いでした。そんな中で、グルーさんは一生懸命、日本はそんなに変な国ではないのだよ。立派な方も沢山いるのだということを伝えて日本への理解を促してくれた。それが戦後の米国の占領政策に寛大な方向性を与え、日本の復興を早めたところもあるのです。

今は長寿命化社会でございますから、私もそうですけれども、サラリーマンとしての時代が終わった後でもまだまだ活躍できるのだという見本を示してくださっているのも、吉田さんでございます。

戦後の吉田さんについてはみなさまご存知だと思いますが、戦争がはじまってからは、それをなんとか早くやめさせたいということで動きました。このために、吉田さんは吉田反戦からもじった「ヨハンセン」という暗号をつけられまして、屋敷の中まで軍隊の警察、憲兵隊の密偵が入っておりました。吉田さんのお宅には書生さんがいましたが、実はこの人が憲兵のスパイでして、いろいろな情報を東京に伝えるために、ちょうど今の南本町にあった「高野」というところで、今はもうなくなってしまったのですが、お肉屋さんで、牛乳なんかを私も量り売りで買った口ですけれども、そこに憲兵が来ていろいろやっていたようであります。吉田さんは、昭和２０年、敗戦の年ですけれども、憲兵に逮捕され、４０日ほど牢屋に入っておりました。吉田さんは終戦工作については頑として口を割らなかったそうです。陸軍の刑務所を出られて、大磯に戻った際に、スパイの書生さんが、「刑務所はいかがでございましたか。」と尋ねた時には、「一生に一度は入ってみるのも良いと

ころだね。」と大笑いしたという。それを聞いたスパイの青年は、いやあ、この吉田という人はすごい人物だなと感服してしまったということです。敗戦後、その青年が、吉田さんに、「実は私は、貴方の動静をさぐる任務で奉公していたのです」とお詫びすると、「そうか、それで君はこれからどうするのだね」と尋ね、青年が「実は何も仕事が無いのです」と告げると、「ではうちに来て働きたまえ」と言って、結局青年は書生として働いたと。吉田さんは、そのような人物であります。

ところで、吉田さんご本人は、政治家になるのが嫌だったそうであります。

大体自分は人に頭を下げるのは嫌だ。そういう男だから向いていない。選挙なんかでいちいち頭を下げたくないと。そして、無理やりに選挙に出されたわけですけれども、オーバーを着たまま、ポケットに手を突っ込んだままで演説をしたら、「お前何だ、選挙に出たら外套を脱いでちゃんとやれ」という野次が飛んだ。そしたら、吉田さんは、「これが、本当の外套（街頭）演説だ。」とシャレでごまかしとというような面白い話があります。こんな皮肉で切り返す辺りは、今の政治家とはちょっと桁が違うかなという気がします。また、国会で演説している時も、本会議場でですね、前の方に来ているカメラマンが、今とは違いまして、昔はまあご存知だと思いますけれども、すごい眩しい色のマグネシウムをパンと点けて写真を撮るのですが、あまりにも何回もやるので、「うるさい。」と言って水をカメラマンにぶっかけたそうです。今ではちょっと考えられない事でございます。

京都大学の教授と吉田さんがテレビで対談しているのを拝見した記憶があるのですが、総理はもう８０歳近かったのですが、非常にお元気で、「何を召し上がっているのですか？」という問いに、「私は人を食っているから元気なのだ。」と仰っていまして、私も思わず笑い出してしまったのですけれども、面白いおじいさんだなと思いました。

総理在任中は、結構新聞が批判をしまして、早くやめろと言われていたのですが、不思議なことに人気が出てきて、その独特な人柄といいますか、だんだん受けが良くなってきました。総理になる時も、俺は絶対総理にはならない。大体俺は譲歩するのも嫌だし、嫌いな人に頭を下げるのも嫌だし、金を作るのもやらんと言っていたわけです。けれども、実は騙されて総理になってしまった面もあるわけですね。吉田さんの娘さんに、九州の麻生家に嫁いだ和子さんという方がいて、吉田さんが非常に信頼していた人物なのですが、お父さんは絶対総理なんかになってはいけない。人とうまく付き合うこともできないし、人を信用することもできない。だから向いていないということで反対していました。そこで、総理にさせようと一計を案じた方が、実は和子さんも総理になっても良いと言っていますよ。と嘯いて、吉田さんはだんだんだんだん断る理由がなくなって、とうとう受けてしまったのですね。和子さんは最後まで駄目だと言っていたそうでありますので、吉田さんは騙されて引き受けてしまったということになろうかと思います。

そういうことで、今日、もちろん忘れてならないのは、当時の日本が戦争に負けて、連合国の占領下におかれた事。今の若い世代、私は昨年まで明治大学で教えていたのですけれども、丁度ここに来られた数くらいの学生さんたちのクラスを２つ受け持っておりまし

た。その時、聞いたことがあるのですが、私が高いところから話すのが嫌いですから、通路に降りて聞いてみた。最近の学生はいろいろな事を知っていると思っていたのですけれども、驚いたことに、色々聞いてみると何も知らない。もちろん、「山本五十六を知っているか」と聞いたときには、ほとんどゼロですね。連合国軍、日本が戦争に負けたという、これも知らない学生がいた。本当の話でございます。アメリカと戦争したという事も、みなさま疑うかも知れませんが、知らない。実は日本は、アメリカだけではなくて、五十数ヵ国の連合国軍と戦って負けた。ですから、降伏文書調印も大変だったですね、みなさまもニュースで見られたと思いますけれども、東京湾で、ミズーリという大きな戦艦ですけれども、その甲板上で、日本の重光葵外相が敗戦のサインをしました。そこから、ＧＨＱによる占領は７年間続くわけであります。そういう中で、日本は再出発しなければならなかったわけであります。それで、吉田さんの、みなさまが一番知っているのは、サンフランシスコ平和条約を結んで日本の独立を回復したことです。独立していない頃の日本、負けた直後の日本というのは、まず、日の丸の旗を揚げられない。禁止でございます。それから、船なんかもですね、必ず国旗を掲げないと無国籍船になってしまうのですけれども、国旗を掲げられないのです。それで、国際標準認識標のような変なものを立てて、それでないと動けない。そして、日本人は、海外旅行は禁止でございます。最近は年間に、パスポートを持って外国に行かれる方は１，５００万人～１，８００万人と言われておりますけれども、１人も行かれないのです。政府はありましたけれども、最終的な事を決めるのは、全部連合国軍総司令部（ＧＨＱ）で、お馴染みのマッカーサーという方でございます。しかし、そういう中で、吉田さんは非常に強気でありました。アメリカ何するものぞということで、臆することなく、毅然と渡り歩いていったのです。「戦争に負けて外交で勝った歴史がある。」というのは、総理大臣になる直前の吉田さんの言葉ですが、それを必死になって実践しようとし、アメリカ人に向かってペコペコしない非常に数少ない日本人でございました。

今の日本国憲法、これも、草案はＧＨＱの若い人達が作ったわけですけれども、日本に不利にならないように手を加えたりして、ＧＨＱとの交渉を繰り広げます。

そして、日本の独立をずっと辛抱強く、どうやったらできるかを考えておりました。次第に、占領下の日本に対して、共産圏の国々から日本に影響を与えようという動きが積極化してきます。朝鮮半島で戦争が勃発すると、アメリカも、朝鮮に行って戦わなくてはいけない。これでは、日本がガラガラになってしまう。これではまずいということで、日本を何とか独立させなければいけない。日本に再軍備させなければということになり、日本の政治家も軍隊を持つことに賛同します。しかしながら、吉田さんは断固としてそれを受け入れなかった。何故受け入れなかったかというと、いわゆる平和主義者とか戦争反対というのではなくて、当時の敗戦後の日本の国力で軍隊というものを持つというのは無理であると、まずは国を、ある程度経済的に復興しなければ、軍隊を支えられない。それに、当時は、旧陸軍の中将以下の上級将校の方々も沢山いらして、虎視眈々と日本の再軍備を

狙っていたのです。それは戦前の日本に戻すということであります。吉田さんは、絶対にそれはいかんと、戦前の日本に戻してはいかん、日本は生まれ変わらなければ、もう軍隊が国を動かすようなことはいかんという、そういう信念を貫きました。

そこで、軍事的に日本を守るために、アメリカの力を借りたいと、それは実はアメリカにとっても、日本に独立させる良い条件となったわけであります。

そして、サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約が結ばれます。残念ながら、会議には出席したのですけれどもソ連の代表は帰ってしまいました。従って、ソ連抜きで締結したのですけれども、このことについて、日本のマスコミは批判したのです。吉田内閣けしからんと。全面的に世界中の国と一緒に講和するべきだと。でも、吉田さんは、それを待っていたのでは、何時になるか分からないということで、部分講和の道を選びました。この選択は、今日になって正しかったということは今歴史が証明しています。このような大功績がある方でございます。

スライドに出ている日米安全保障条約のサインですが、日本側は吉田さんのサインだけです。この条約の事で、他の人に害が及ばないように、この事で何か批判されたら、自分が責任を負うのだということであります。サンフランシスコから帰ってくる飛行機が日本に近づいた時、吉田さんは窓に顔を擦り付けるようにして、富士山を眺めて泣いておられたというのですね。そういう人情のある方でございます。

よく、俗にですね、吉田さんは新聞は英字新聞しか読まないとか、ウイスキーしか飲まないなどと言われましたが、嘘でございます。

吉田さんは野村胡堂の銭形平次捕物帳も大好きでした。ウイスキーをよく嗜まれていたのは本当ですけれども、土佐の銘酒「司牡丹」など、日本酒も大好きで、よく大磯の豆腐屋さんに買いに行かせ、湯豆腐を食べていたそうです。

みなさまの中には、吉田さんが生きていた頃にお会いになった方も沢山いらっしゃると思います。今、スライドに富士山が映し出されておりますけれども、吉田さんが亡くなる前の日に、娘さんの和子さんに起こしてくれと頼んで、そして銀の間ですね、復元の対象になっていますけれども、そこからじーっと富士山を見ておられたそうであります。

非常に話題の多い方であります。お医者さん、主治医の武見太郎さんという方にかかっていたのですけれども、日本の医師会のボスでありますが、一度、８０歳を過ぎてから倒れて危篤状態になったときに、武見さんが駆けつけたところがですね、吉田さんが目を開けて「フッフッフッ、ご臨終に間に合われましたね」と瀕死の病人の癖に強気な事を言ったそうです。ところが、武見さんは「あんた、まだ生きていたいと言うか」と切り返したという、日本人がいたのですね。他にも、池田勇人や佐藤栄作など、いろいろな人達がこの大磯の吉田茂邸を訪れ、いろいろな事を話されたのであります。

今では携帯電話がありますが、昔は電話１本かけるのも大変だった時代に、吉田さんがお住まいになっていた部屋からは直通で総理官邸と結ばれておりました。佐藤栄作さんも、沖縄返還を決断するときに、一番最後に相談したのは吉田さんでした。

私たちは、その同じところに住んでいたのだという幸せを、子どもたちに遺せればありがたいな、と思います。サンルームや兜門は燃えないで残っております。サンルームは吉田さんがものを考えるときによく使っていた場所であったそうでありますし、兜門はサンフランシスコから帰って講和門と名付けたそうでありますが、ここを自由にくぐってですね、吉田さんの部屋を歩いて、まずは吉田さんの場所を、そして建物をこの目で見れるように、ここが日本の中心地だったのだと子どもたちが確かめることができるように、郷土について自信と誇りが持てるように、何とか私たちの世代の責任としてこれを復元し、エネルギーを与えてくれる場所にしたいなと願っている次第でございます。

ありがとうございました。

（旧吉田茂邸の現況報告／神奈川県平塚土木事務所長　浅羽義里）

神奈川県の平塚土木事務所長の浅羽でございます。

本日は、私どもが県立大磯城山公園の、吉田邸を中心とした拡大する部分ですが、そこのところの進捗状況について、主な工事の整備内容についてご説明させていただきたいと思います。

公園の目的ですが、公園全体は風致公園ということで、緑豊かな地域であり、歴史風土もございます。その辺について一体感を持たせた公園にしていきたいと考えております。

都市計画面積でありますが、既設の大磯城山公園と合わせて、約９．９ｈａございます。旧吉田邸がありましたところの区域は、平成２１年の７月に都市計画決定いたしまして、約２．９ｈａを追加しております。

現在の大磯城山公園には、展望台や郷土資料館がありますが、今回整備を行います旧吉田邸につきましては、日本庭園、それから歴史と文化の体験施設を想定しております。この歴史と文化の体験施設というのが、旧吉田邸のあった部分でありますが、どのような再建をするかというのは、はっきりと決まっておりません。今、町さんと色んなお話をさせていただいておりますけれども、歴史と文化の体験ができるような施設にしていきたいなと、そのような事を考えております。

事業のトピックですが、豊かな風致を有しております。先程、昭和を代表とする政治家、吉田茂氏についての色々なお話が、町長さんをはじめ、関係の方から本当に熱い想いで語られました。そのような歴史的な資産、文化的な遺産、それらを活かした公園にしてまいりたいと思っております。

今、大磯城山公園の本体と旧吉田邸とは、国道１号を挟んだ位置関係になっておりますが、やはりみなさま、国道を渡るのは大変かと思います。旧吉田邸のある区域と、それから国道１号を挟んだ位置関係にある今ある公園については、歩道橋で結んで、一体になるようにする予定でございます。そして、みなさまに、国道１号から入っていただいて、ご覧いただけるような、そんな公園にしていてまいりたいと思っております。

こちらのスライドをご覧ください。中ほどの横線が国道１号でございます。

国道１号の北側は、現在の大磯城山公園、国道１号の南側の約２．９ｈａが、旧吉田邸があったところで、現在、私どもが整備しているところであります。色が分かれておりますが、南側のグリーンの部分、このグリーンの部分は、松林を中心とした散策路を今整備している最中であります。それから、グリーンの部分の北側にある赤の部分、この赤の部分は、広場ですとか園路整備をしておりまして、この内側の黄緑色に塗られている部分ですが、ここに、日本庭園が設置されております。今、約１，２００本位の樹木を剪定しておりまして、形を整えている最中であります。やはり日本庭園というのは、みなさまご承知だとおもいますが、結構樹木を小さく小さくして、それで庭園を綺麗に見せるという手法をとっています。しかしながら、あまり今まで整備されていなかったものですから、木がかなり茂っております。そこで、これらの木をかなり剪定し、小さくして、今後２年間

位かけて新しい芽を出して形を整える作業を繰り返していく、こんな形をとっていこうと考えています。

そして全体の園路の部分ですが、園路も高低差が結構ありますので、お年寄りの方などの歩きやすさを考えますと、バリアフリー対策というのが求められますから、幅の広い園路をメインに３００ｍくらい造って、そこから細かい園路に接続していくような計画で進めております。

国道１号から入ったすぐのこちらの部分が駐車場、２０台強を予定しております。あとは、薔薇園ですとか若干の休憩施設。中央の黄色の部分が旧吉田邸があったところでありまして、ここに歴史と文化を体験できるゾーンということで。まだどんな再建になるかは分かりませんけども、何らかの施設を考えていきたいと思っております。

ただやはりこの施設を作るためには、先程町長さんも仰っていましたが、機運の醸成といいますか、どれだけみなさまの熱意があるかにかかっていますので、そういう状況をみながら検討して対応していきたいと思います。

こちらのスライドは、事業の予定ですが、ただ今、申し上げました日本庭園ですとか、園路整備、樹木などの植栽工事などを行って今の現在の予定では平成２４年度末頃までには、みなさま方に一部開放できるかなと思っております。ここに事業認可と書いてありますが、国から認可をもらって、平成２１年の１０月から平成２８年の３月ということです。ただ、この全体の計画の中に、先ほどの歴史と文化の体験施設、これは事業の認可の中には含まれておりません。これについては、まだ形も決まっておりませんし、どんな整備になるか分かっておりません。残念ながら旧吉田邸も焼失してしまいました。ただ、歴史と文化と書いてありますように、みなさま方の中に、文化や歴史をきちんと大切にしながら、そして、そういうものが思い出させる、また、醸し出されるような、そういういうものを考えてまいりたいと思っております。

進捗状況は以上です。ありがとうございました。

（再建検討状況の説明／大磯町政策課長　相田輝幸）

本日は、お寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、こちらのプロジェクターを使いまして、みなさまに、旧吉田茂邸再建の検討状況について説明してまいりたいと思います。

それでは、こちらのスクリーンをご覧ください。

旧吉田茂邸の焼失写真でございます。

平成２１年３月２２日、今から約２年前でございますが、大磯町の名誉町民であり、戦後の日本復興に大きく貢献されました吉田茂元総理の本邸が原因不明の火災により焼失しました。本邸脇にあるサンルームへの延焼は防ぐことができましたが、およそ 300 坪の邸宅が全焼してしまいました。

焼失前における旧吉田茂邸は、敷地を神奈川県が購入し、建物は所有者から県が寄付を受けるということで、県立大磯城山公園の拡大区域として整備し、本邸については、町が維持管理を担っていくという方針が決まっておりましたが、本邸焼失という事態を受けて、改めて検討していくことになりました。

旧吉田茂邸の位置図です。皆様ご承知のことと存じますが、現在の県立大磯城山公園の南側に位置しております。北側が国道１号、西小磯と中丸の境に位置しております。国道１号沿いに小高い山があり、その山の南側に本邸がございます。敷地面積は３.３ｈａ（10,000 坪）、延床面積は約 1,000 ㎡（300 坪）でございます。

国道１号からは、矢印に沿って兜門を通っていくという経路で本邸に至ります。

こちらは、焼失前の旧吉田茂邸を、西側の日本庭園から撮った写真です。

ここで、少々お時間をいただいて、旧吉田茂邸の玄関ホール、応接間棟、食堂、金の間、銀の間について、ご紹介させていただきたいと存じます。

まず、本邸を西側正面から見た写真ですが、植木に隠れて見えにくい部分もありますが、向かって真ん中に位置する部分が①の玄関ホール、その右に位置する２階建ての建物が②の応接間棟、玄関ホールの左側、二階建ての建物に見えますが、下の部分が③の食堂（ローズルーム）、上の部分の右側が④の金の間、左の部分が⑤の銀の間でございます。

まず、玄関ホールですが、こちらが、玄関ホールの写真です。

左手に見えるガラス張りのところが、中庭。奥が応接間棟。スリッパが並べてあるところの右側が玄関です。

中庭の写真です。なお、玄関まわりは、建築家吉田五十八氏が改修した部分と言われています。

吉田五十八氏は、昭和の戦前に、西欧建築と日本の伝統的数奇屋建築を融合させた独自の近代数奇屋建築を確立させた建築家で、昭和２７年に日本芸術院賞を受賞し、昭和４９年の逝去の際には勲一等瑞宝章を受けました。

主な作品として、外務省飯倉公館、成田山新勝寺大本堂、東京歌舞伎座、明治座などがあります。

なお、吉田五十八氏が手がけた四代目東京歌舞伎座は、現在建替をしております。

また、東名高速道路御殿場インターチェンジの近くにある東山旧岸邸（第 56･57 代首相岸信介の自邸）も、吉田五十八氏の設計で私的空間と公的な接客部門とを分ける工夫が施された近代数奇屋建築によるものでございます。

次に、応接間棟ですが、こちらは、応接間棟の１階、「楓の間」の写真です。

「楓の間」は、畳 40 畳分（66 ㎡）の洋間で、天井が船底の形をしております。

天井の梁は長さ５間（9m）の北山杉で、京都の５つの山を探して持ってきたものだそうです。当時の価格で１本 100 万円から 200 万円したと言われていますので、現在の価格に換算すると、約 700 万円から 1,400 万円ということでしょうか。

写真の左の方にある暖炉は大理石で、床の間は赤松の一枚板です。

１９７９年（昭和５４年）６月２６日には、大平首相とカーター大統領の日米首脳会談がこの部屋で行われました。

こちらは、応接間棟の２階部分の写真です。吉田茂氏が首相在任中に執務室として使用されておりました。また、書斎コーナーのガラス棚の一番下の引き戸の中には、ダイヤルのない官邸直通の黒電話が備えられていました。

奥の浴室には、かつて大磯の浜辺で良く見られた漁師の舟の形をした、檜の一木を刳り貫いて造った浴槽があり、床は板敷になっていました。

次に、食堂（ローズルーム）ですが、こちらが、食堂（ローズルーム）の写真です。

建築家吉田五十八氏の設計で、写真の左手北側の窓から見える木立の奥から滝が流れるようになっており、お気に入りの来客の時には滝を流していたと言われています。

西側のガラス窓の引き戸は、壁の中に収納できる設計で、全開することができ、ここからの富士山の眺望は素晴らしいそうです。写真奥の壁紙には、仔羊のなめし革 231 枚がパネル状に張られており、当時の価格で一枚１万円と言われる高価な仕様だそうです。現在の価格に換算すると 231 枚で 1,000 万円ということでしょうか。

写真の中央奥にある衝立ですが、蒋介石から寄贈されたもので、ガラスの内側には山水が彫られ、色彩が施された国宝級のものだそうです。

次に、「金の間」ですが、こちらが、「金の間」の写真です。

こちらも建築家吉田五十八氏の設計で、吉田茂氏が、当時、アイゼンハワー大統領の来日時に利用できるように増築した部屋です。しかしながら、同大統領の利用は実現されなかったということです。また、１９７９年（昭和５４年）の大平首相とカーター大統領の日米首脳会談も、この部屋で行うことが予定されていましたが、見晴らしが良く、狙撃に対する安全が確保できないとの理由で、先ほどの説明で触れましたように、直前で「楓の間」に変更されました。

次に「銀の間」ですが、こちらが、「銀の間」の写真です。

こちらも、吉田五十八氏の設計で、吉田茂氏が息を引き取った部屋です。天井にはレース紙と銀色の布が使用されていました。

長くなりましたが、旧吉田茂邸の主な部屋の説明を終わらせていただきます。

ここで、旧吉田茂邸の再建に向けて、神奈川県、大磯町で設置している検討組織をご紹介します。神奈川県の「旧吉田茂邸再建検討会議」ですが、構成委員は、県土整備局の建築住宅部長をはじめ、県庁内の関係各課の職員と大磯町の職員で構成されています。次に、神奈川県の「旧吉田茂邸再建検討委員会」ですが、構成委員は東京農業大学で日本庭園史を専門にされている先生、関東学院大学で日本近代住宅史を専門にされている先生、東京大学大学院で建築工学を専門にされている先生、國學院大學で日本近代史を専門にされている先生、東京農業大学で公園計画学を専門にされている先生など、主として学識者で構成されています。次に、大磯町の「旧吉田茂邸再建プロジェクト」ですが、構成委員は、副町長をはじめ町職員で構成されています。次に、大磯町の「旧吉田茂邸再建検討委員会」ですが、構成委員は、町民で構成されています。大磯町の「旧吉田茂邸再建特別委員会」ですが、構成委員は、町議会議員で構成されています。

本日は、ただ今ご紹介しました検討組織における議論や法的課題などを踏まえた旧吉田茂邸再建の検討状況をご説明させていただきたいと思います。

まず、現在の状況ですが、旧吉田茂邸の跡地につきましては、県立大磯城山公園の拡大区域としての整備が進められております。平成２１年７月に都市計画決定が告示され、平成２１年度に敷地の大部分を神奈川県が購入しております。公園整備工事につきましては、現在早期開園を目指して整備中でございます。

なお、本邸につきましては、県が再建するのか、町が再建するのか、あるいは再建後の本邸の維持管理はどちらが担うのかといった役割分担や、実際の再建の規模がどの程度になるのかといったことは今後の検討課題であります。

次に、現在の旧吉田茂邸再建基金の状況ですが、こちらのグラフは募金額の推移を月ごとに表したものであります。２月１５日時点で 57,850,615 円となっております。

次に、これまでの経過ですが、まず、「旧吉田茂邸の再建に向けた要望書」ですが、これは、平成２１年７月１日に基金条例を設置したすぐ後の平成２１年７月９日に、当時の町長、町議会議長及び町の吉田茂邸再建検討委員会の委員長とで神奈川県庁を訪れ、副知事に直接手渡したものでございます。

神奈川県知事宛ての要望書で、内容につきましては、町議会や町民から提出された意見を尊重して内容の検討を行い、大磯町の総意を示すものとなっております。

要望書に添付した図面はこちらでございます。旧吉田茂邸が有していた貴重な歴史的空間を再現し、多くの人々が訪れ、利用できるようにすることで、戦前戦後の日本が歩んだ歴史や近代政治を学ぶ教育の拠点になると考えます。という内容を記したうえで、西側正面玄関ホールから入って、右側の応接間棟、同じく玄関ホールの左側の食堂、その奥に位置する金の間・銀の間といった新館部分を有料見学ゾーンとして位置付け、木造で可能な限り焼失前の佇まいを忠実に再現してほしいという内容の要望をいたしました。

また、旧館部分やベランダ棟につきましても、可能な限り焼失前の姿に再現して、来園

者の休憩所や地域交流を図るゾーンとして利用したいという内容の要望をいたしました。

なお、可能な限り焼失前の姿に再現できることを望みますが、町の財政状況は厳しい状況が続いているため、県が主体となって再建していただきたい。ただし、再建後は大磯町にとっても町の魅力を高める重要な拠点となりますので、町が建物の維持管理を担ってまいりたい。また、少しでも焼失前の姿に再現できるよう、全国に寄附金を呼びかける。」といった内容を要望書に盛り込んでおります。

さて、大磯町からの要望の内容も踏まえまして、旧吉田茂邸の再建について、法的な対応や歴史的な価値など様々な角度から多角的な検討がなされてきました。

その結果、旧吉田茂邸の再建への理解を深め、募金活動を盛り上げるために、昨年２月５日に東京の赤坂プリンスホテルで開催された「吉田茂と大磯の歴史的魅力を考えるシンポジウム」の松沢知事のあいさつの中で、「建物の再建については、大磯丘陵の照葉樹や庭園と一体となった景観イメージを重視し、今後も検討を進めたいと考えています。」と話されておりましたように、再建にあたっては、庭園から見た日本庭園と建物との一体感のある景観の再現と戦後政治史の舞台となった歴史的空間の再現を重視して検討しています。

神奈川県で設置している「旧吉田茂邸再建検討会議」では、再建の概念や法的・技術的な課題についての検討を行い、再建の検討範囲については、中間的なとりまとめとして、図のようなイメージを描いています。

再建イメージは、

①として、「再建の検討範囲を、重視すべき視点から、応接間、玄関ホール、食堂、金の間、銀の間とする。」

②として、「再建にあたっては、法の規定により完全復元が難しいが、可能な限り焼失前の形態、仕様の復元をめざす。」

③として、「旧館・ベランダ棟については、後世の再建を阻害しないよう、建築物は設置せず、礎石広場とする。」

④として、「焼失を免れた温室は、一般公開する場合には、現行法に適合する最低限の改修を行って存置させる。」

といった内容となっております。

これは、日本庭園と一体となった景観と吉田邸が有していた歴史的空間の再現をめざし、この部分は再現していきたいというものでございます。なお、旧館部分は、焼失前の建物の配置が想像できるように、基礎の部分をそのまま残した広場にするということで、図面上、「礎石広場」と記載されております。

引き続きまして、再建する建物をどのように利活用していくのかということですが、ただいまご説明しました再建イメージは、玄関ホール、応接間棟、食堂、金の間、銀の間の再建をめざしていくということを意味しております。しかしながら、建物を管理運営していくうえでは、事務室や展示品の収蔵スペースなども必要になってくると考えますので、建物管理機能を設けていく必要があると思っております。

次に、玄関ホール、応接間棟、食堂、金の間、銀の間の再建をめざすということで、平成２１年７月９日に町から要望した「見学ゾーン」の部分は再建の検討範囲に含まれております。一方で、町から要望していた「地域交流・休憩ゾーン」の機能は備えることができないのかという点ですが、吉田茂氏の邸宅を再建するということに最大の意義がありまして、旧吉田茂邸が有していた貴重な歴史的空間を再現し、その中で、吉田茂氏の事績を通して戦前戦後の政治史に触れることができるような、吉田茂性が濃い建物の再建をめざしております。したがいまして、本邸があった場所に、建物の管理運営上必要な室以外の、吉田茂との関連性が薄いものの建築は困難であると考えられております。

ここで、再建後の吉田茂邸をどのように利用していくのかということに関連して、ここで、昨年２月５日に東京の赤坂プリンスホテルで開催された「吉田茂と大磯の歴史的魅力を考えるシンポジウム」のパネルディスカッションにおいて、松沢知事が発言された内容の一部をご紹介したいと思います。

「再建に向けての計画を町と県と一緒に考え始めました。今、町長を中心に多くの浄財を募ろうと活動しています。また国民の皆様に吉田茂という政治家、あるいは戦後の日本の復興に向けて政治の舞台となった歴史的価値のある場所、これを国民の財産としてみんなで力をあわせて再建して、後世に伝えていく、国民運動にするべきだと考えています。神奈川、大磯という地域がいただいた歴史の贈り物を大切に後世に伝えていく、そして将来多くの皆さんが国内外を問わず再建された吉田茂邸に訪ねていただいて、そこで吉田茂の生き方、あるいは日本の戦後政治史、そういうものを学んでいただける場にしていきたいと思っております。」「吉田茂邸を設計図のままに再建することは困難です。そのまま復元するのではなく、門や七賢堂は守られていますからその中や外見も少し長持ちする建物にして、戦前戦後の吉田茂が生きた時代の図書館的機能があるのも良いと思います。資料の貸し出しや、中学生、高校生が近・現代史を勉強する中で歴史に興味を持ってもらう、臨場感あふれる建物の中で資料を見ながら歴史を感じることができる場に再建できればと思っております。」と話されておりました。

要約しますと、

- 戦後の日本復興に向けた政治の舞台、歴史的価値のある場所
- 歴史の贈り物を大切に後世に伝える
- 吉田茂の生き方・日本の政治史を学ぶ場
- 図書館的機能があるものも良い、中学生、高校生が臨場感あふれる建物の中で近・現代史の資料を見て感じとる場

ということでございます。

こちらのスクリーンの内容は、お手元にお配りした次第の裏面に同じものを用意させていただきましたので、ご覧ください。町としても、吉田茂氏に関連する映像や、資料、遺品などの展示、専門家による勉強会等を行うことによって、吉田茂氏の政治的業績を通して近現代史を学ぶ学習施設として、また、大磯の自然と日本庭園、そして本邸とが一体と

なった景観の中で、吉田茂氏が居住していた頃の生活空間と国内外の要人と交流していた空間を再現することによって、吉田茂氏が住空間に求めた美意識を感じとり、また、戦後政治史の舞台となった歴史的空間を味わうことができる体験施設として、「人間　吉田茂」と「舞台　吉田茂邸」を肌で感じとることのできるような体験学習施設としての機能を備える必要があると考えております。したがって、そのような機能を設けるために、町としましては、今後、神奈川県のご協力をいただきながら、引き続き検討を進めてまいりたいと思っております。

以上で、ご説明を終わらせていただきます。

（再建の意義とコンセプト／大磯町長　中﨑久雄）

ただ今、政策課長よりみなさまにこれまでの県と町の検討状況、考え方について明白に、ご説明させていただきました。これまでみなさま方にこのような会をもってお話してきたことはなかったと思います。今までみなさまがお考えになっていた事と本日お聞きになった事との間に何らかのズレがあったかもしれません。しかし、再建のコンセプトにつきましては、政策課長からのご説明の最後の方で申し上げたとおりであります。

私は、これが今、県と町の考え方であると、みなさまに申し上げるわけであります。Ｌ字型になっておりましたイメージ図というのがございました。イメージ図。およそこのような食堂、新館、礎石広場、応接間等、をもって旧吉田邸再建検討会議の中間とりまとめとして、私たちに示されたものであります。県がこれを建てるのか、町が建てるのか、本当に歴史としてこの町が誇れる旧吉田邸を県の公園の中に建て、子孫に伝えていきたい。その想いは、松沢知事がお話された言葉の中にもございますが、町と県が一体となり、それを実現しなくてはなりません。これは正に、日本の仕事、そうであろうと考えて、私達は、大磯町の誇りとしてそれを造っていきたいのであります。

これは正に、公園の中に吉田邸を造る強い意志を大磯町が発信せねばなりません。県のお金で造るのではないと思います。多くは、町の強い意志を示しながら、県に働きかけ、県を動かし、国の補助金をもらい、そして、造っていく、そういう姿勢を今こそ示すべきであろうと、私は考えております。

先程申しましたが、県が造ってくれるかもしれない。国は造りません。しかし、そこのところはいまだハッキリとしてないわけであります。精神的なものを、そういう意味で知事は話をされていたように私は聞いておりました。みなさんに申し上げたいのは、町の力をここで合わせ、今、６,０００万弱としている金額、そして吉田財団のほうからの２億円をもってこの建築に充てて欲しいというお言葉をいただいております。これを今一歩進めて、私達の浄財はこれだけあると県に示し、これをもって主張していくことが大磯町の力であろうと私は考えております。旧吉田邸の実現は、みなさまとともに町をあげて取り組んでいくことにより、今少しで私は可能になるとそういうふうに考えております。果たして、この建築費がいくらになるかどうかは、私たちの力によって決まってくるのであります。

みなさまのお手元にございます、旧吉田邸の体験学習施設、正に私たちは、吉田邸の中に、公園の中に、このようなものを造っていきたいという強い思いを県に訴えてやっていこうではありませんか。Ｌ字型プラスこのようなものがもし出来るのであれば、この可能性をやはり示していかなければなりません。

県の公園の中に町のホールを造るわけにはまいりません。しかし、その中にこのような形のものを、ぜひ造っていただきたい。そういう強い意志を私は町長として県に示したい。迫りたい。そういう思いで、今一歩、町が一丸となり、そのために、みなさまの気持ちをいただきたいと思い、今日、こういう説明会をいたしました。今まで明らかにしてきませ

んでしたが、本日ご説明いたしましたこれまでの経緯をもとに再度お考えいただきたいと思います。

そしてその後、時間も押し迫っておりますが、私に答えられること、みなさまからご質問をいただきたい。非常に難しい法的な縛り、県の立場もございます。全部がきちっとみなさまにお答えできない場合もあるかもしれませんが、どうぞ、お時間の許す限り、色々なご質問をいただきたいと思います。

＜ 意 見 交 換 ＞

（Ａ氏）

ご丁寧な説明本当にありがとうございました。私はいくつか質問があるのですけれども、２つに絞って質問したいと思います。

まず１点目は、各町内の説明会の時には、私は完全復元をすると、そのために寄附金を集めたいのだという説明をいただいたと思うのですが、今回は完全復元ではなくて、Ｌ字型という、よく内容がわかりませんけれども、そういう当初の計画から縮小された計画になっているのでしょうか。細かく今説明をいただきましたけれども、一体、Ｌ字型を建てるにはお金がいくらかかるのか一言も触れていない。ですから、その資金繰りということで、どのくらいの建設費がかかるのかと、それをまずお聞きしてから色々な計画が進められるべきであろうと思います。

それから２点目は、私は個人的には、この吉田邸の復元の優先度は、大磯町にとっては高くはないのではないかと感じます。しかしながら、大磯町としてはですね、町民が集まるホール的な施設もありませんので、これを機会に、そのホールらしきもの、まぁ、１００人、２００人くらいが集まれる交流スペース広場といいますかね、そういうスペース広場が造られるんだったら、これを機会にその計画を検討していただくべきであろう、こんな風に思いますけれどもいかがでしょうか。

（町長）

費用の件につきましてですが、今、実際にきちんと設計したものはありません。イメージ図ということでお示ししております。

しかし、私たちが用意したその金額によって、建物の規模や仕様が決まるのは一般的であります。ですから、少し専門的な立場で県の方もお答えにくい面もありますが、お聞きしてみたいと思います。

（平塚土木事務所長）

県の方からなかなかいくらということは非常に答え難いお話でございまして、まずこの建物が建っているこの地域は、第一種低層住居専用地域ですから、建物を建てるために色々な制限があります。焼失してない時は修繕ということで考えておりましたが、新たに建てる場合になりますと、様々な制約があります。例えば防火対応をしなければいけないだとか、色々な対応があります。またその復元の中に、どんな機能を持たせるかということについても、それによっても金額の差があります。ですから、一口にいくらという話はなかなか言い難いところでございます。その数字だけが一人歩きしてしまいますので。しかしアッパーとして、億単位のお金がかかってくるだろうという風に私どもは試算しているところでございます。

（町長）

Ａさんの先程のご質問で、町の人達が集まって何か出来るような１００人、２００人の施設をと仰いましたが、法律的に県の公園の中にホールというわけにはなかなか出来ないそうであります。しかし、学習する施設として、何かそういうコーナーができないかこれについては、私たちの町の意志を県に伝えていきたい。確かに、色々なことの推測ではありますが、推測を言うとまた一人歩きをしてしまいます。しかし、あれだけの建物ですから、管理スペースとかそういうものも必要であろうと、私たちは推測は推測であるわけですが、やはり多くの浄財を得てそういうものをやっていくときに、学習の場としてのそういうものが必要であるということは、コンセプトの中に入っております。そういう中で、今、きちんとした設計をしていない中で、町の意志というものを強く伝えいくためには、そういうことを私は町長としてやっていきたい。そういう思いであることでご理解いただきたい。

もう１つご質問がありましたね。Ａさん自身は、その意味を、重要性がもっと他にあるのではないか。これは、みなさまが色々どうお考えになるかということであります。確かに歴史的に重要なものは沢山あります。それも精神的な文化的なものでございましょう。しかし、戦後の、日本が敗れた後から、私達の中に、そして、歴史を知り二度と繰り返してはいけない戦争に思いを馳せる子供達のためにも、このようなものを造っていくという意味というのは、他の文化財といささか違った面もあろうかと私は個人的には考えます。しかし、そういう目的でもって、この募金というものは、平成２１年の７月に始まりまして、町の方針として、今正に動いております。きちんとしたコンセプトもございます。今、これをみなさまとともに継続したいという思いで、本日説明会をしたわけであります。よろしいでしょうか。

（Ａ氏）

建設資金は億単位だという、こういうお話だったわけですが、１０億円なのか５億円でできるのか、Ｌ字型の構想ですか、第一構想の仮定としてですね、そうしないとこれからどれくらいの寄付金を目標にして集めていくのか、あるいは町の予算をどのくらい用意しなければならないのか、県からどれくらい頂けるのか、そういった諸々の事がハッキリしていないと、なかなか、この事業が前へ進まないのではないかなと私は心配しております。

（平塚土木事務所長）

中間報告で出されてる内容で再建するとしますと、２ケタ台まではいきませんけれども、億単位ですね、そういう金額がかかりそうです。大体５億円～１０億円の間。ただその、先程も言いましたように、内容的にどんなものを造るかによって違いますので、それによってかなり大きく金額が動いてきます。

以上です。

（Ｂ氏）
　先程の説明ですと、前の町長さんは、文化財的な価値のある建物に再建したいというふうに、地区の説明会で言っていました。全部の再建をして、今の感じだと１５億円かかるのではないかと。ハッキリと１５億円とそういう数字まで並べていたのに、今、ここでＬ字型だと言われると、この間の町長とまるっきり話が変わってきてしまっているのですね。それで、どちらがいいかは別にしても、４年毎に町長が変わってしまうと、この話が元になってしまう。また次の町長がもし、今の町長と違う人になって、また変わってしまうとまた話が変わってしまうのか。本当にそんな意志の弱い町政でいいのかどうか。本当に建てる気があったら、もっと町全体でしっかりできるような、議会だって、最初はなんか反対していたのに急に変わってしまって、選挙目当てだなぁなんて思ってしまうのですけれども。もう少し、はっきりして欲しい。
　また、建物も町が建てていきたいという風に今私は受け取りましたけども、以前は、県が主体で建てて直るんだと。松沢知事が建てると言っていると、ハッキリ前の町長は仰っているのですよ。それと、たぶん去年の…まぁ去年か一昨年くらいの説明会では、そういうふうに仰っていたのが、今回来たら町が主体だという先程からの説明。町にとって一番大事な政策なのですと仰っていましたけども、その辺もハッキリしない。それからランニングコストを聞いてもはっきり分からない。こんなことで本当に良いのでしょうか、という質問です。

（町長）
　分かる範囲でお答えいたします。今、前町長が話していたことと違うということですが、私は、今情報開示をみなさまに申し上げ、これが、今の県と町との状況であるということで、それに基づいた形で今用意されているお金はこうである。ということをきちんと知っていただきたい、そういうことでこの説明会をさせていただいたのであります。

（Ｂ氏）
　そうすると前の町長が言ったことは全然検討もされないで、勝手に言ったということですか。町長のお答えではなくて、いままでいた方がお答え下さい。それじゃないと継続性がないのですよね。

（政策課長）
　ただ今のご質問についてお答えいたします。まず建物については、今まで、焼失する前の建物を修復すると、１０億円くらいかかるのではないかと。それで、再建するためには、半分は国費、国からの補助金をもらったり、県から出してもらったり、町も出したりとい

うようなことを考えますと、浄財の半分の５億円は必要でしょうと。そのようなことで、５億円を目標にしていました。

それから、文化財的価値、こちらについては、焼ける前は、文化財としての価値があるのではということで、本当だったら文化財のそういう指定をしておけばというような、残念な話もあったのですが、そうした時にですね、燃えた後はやはり、それだけの価値、文化的な価値のあるものを造っていきたい。ということで、文化財的なお話が出たと思います。それで、経過としましては、県の学識者の方々の委員会や、県の職員の方々、建築とか土木のプロでございますので、そういった方々が法律的な見解も含めて調べたところ、兜門、サンフランシスコ平和条約を記念して講和門と呼ばれていますが。そこから入って、日本庭園から望んだ景観を重視するべきだと。ということで、学識者の見解や技術的、法律的な視点を含めて考えると、先程私のほうからご説明いたしました、玄関、応接間、左手にダイニング、奥へいって金の間、銀の間、それらを上空から見るとＬ字型です。ということでございます。本来、焼けた後にですね、熱い想いで思い描いていたのは、完全復元ということでした。その後、１年半かけてですね、色々検討した結果、Ｌ字型が現実的かなという状況に変わってきたということでございます。

それから、先程、平塚土木事務所長さんからもご説明がございましたけれども、金額の関係につきましては、例えば坪単価がいくらと設定して、復元するとなると、最高で１０億かかるというようになったと思います。前町長のお話ということですが、それで１０億円という話が流れたのではないかと思います。１５億円という話はなかったと思います。

（Ｃ氏）

私は、この町に生まれて、吉田さんの家の近くに住んでいましたけれども、四十数年仕事で町から離れておりまして、３年前に戻ってまいりました。戻ってきたすぐ後に吉田さんの邸の焼失がありまして、本当にびっくりしたのですけれども、町を離れていますとですね、大磯町ってどんな町ということで、日本の何処に行っても、東京に行っても、世界の他の国に行っても、吉田さんの話だと大体通用する。大磯、あぁ吉田邸、あぁ吉田の所ね、っていう感じなんです。もう１つありますのは伊藤博文、明治の元勲、要するに、文明開化、横浜、大磯ですね、そういった所のイメージっていうのは、日本の津々浦々で通用する。そういう処が私の故郷なのだなぁと思いながら生涯を送ってきたわけなのですけれども、実は３年くらい前に故郷に帰ってまいりますと、なんとなく情けない状況なのですね。吉田さんの歴史もこれで終わりかと。現在も東京に通っていますが、バスで国道を通いながら見ますと、滄浪閣がなんか情けない状況で、大磯って自分達の遺産をどうしようとしているのだろうなぁと、非常に落ち込んでいます。

逆に考えますと、こんなに恵まれた文化遺産を、何か町おこしに繋げてですね、これからの町おこしをしていくような人達がどうしていないんだろうなぁと思います。で、私、しばらく、東京の日野市というところに住んでおりまして、八王子の近くですが、そこは

新撰組の土方が生まれたところ。それから、近藤勇が生まれた三鷹も近くにありますが、彼らは非常にこれを町おこしに利用しましてですね、町のイメージづくり、商工会も協力して毎年、新撰組祭りをしまして、観光客も大勢集まりました。農家の小さな土方邸はすっかり立派になりまして、観光のメッカにもなって若い人達も来ております。まぁ、そんな例もあります。先ほどの、文化と歴史、非常に素晴らしいコンセプトだと思いますが、伊藤博文、それから吉田茂という日本のＫＥＹとなる首相がお住まいになられたところでもあって、そうしたところを総合的に、もう少し、町の人たちが、子どもの時からしっかり認識してですね、育って、これが町の原動力だというようなところまで持っていけないかなというように思います。

一方、何となく情けない中のもう１つのポイントは、なんかそういった大磯だったのに、近頃の町の様子を見ておりますと、なんか普通の町になってしまっているなと、私は東京近郊に住んでおりましたけども、どこに行っても家がどんどん出来てですね、普通の町がどこにでもあるんです。それで、なんか、大磯もだんだんそうなってきたなと。これだと大磯も首都圏近郊の普通の町というだけになってしまいます。まぁ、それだと大磯には産業が特にあるわけではないし、それでいいのかなと。折角持っているものを、自分達の力で活かしきれていないなぁ、というように思います。それで、そういうところを、頭のいい人達が集まって、今後半世紀一世紀ですね、どういう形で大磯を発展させたいというようなプランを据えるようなことができれば、ただ、吉田邸がないから再建するというだけというのではなく。この再建がなければならないということに説得力を持って話すことができるような、そういった全体構想といいますか、コンセプトと概念が必要かと思います。それに基づいて、着実に一つ一つ機会あるごとに成し遂げていく、その道筋をつけて、ぶれることなく、みなさまと楽しみながら作っていくというような、まぁ、大きな全体構想をみんなで共有することも大事ではないかなと思いました。

（町長）

ありがとうございました。まちづくり、当然みなさま考えていらっしゃることと思います。しかし、Ｃさんの仰ることは、非常に建設的であり、分かりやすくもあります。町の職員とともに、政策の一環として今まで考えてきていなかった面も多々あると思います。今日、こういう風に数多くの方にお集まりいただき、１つの問題について町の方と話すこともなかったであろうとそのようにも思いますし、様々なご意見をいただき私は謙虚に聞いてまいります。しかし、今、大磯町にとってＣさんのご意見にもありました。先程のＡさんからも、実際にその金額はどうなのだ、本気になってやるのならどうなのだ、しっかりして欲しいとのお叱りとご意見もいただきました。色々なことを町としてみんなで考えていかなければなりません。しかし、答えが１つになることはないかもしれませんが、町の方針として流れてきております。どうぞご理解をいただきたい。そういうふうに思います。

（Ｄ氏）

長いこと、みなさんから熱意あるお話と解説をお聞かせいただきました。私も昭和１８年に大磯に来まして、かつて、大磯で行われていた参勤交代、こういうようなイメージが連想できる松林、本当に東海道に旧東海道があったというようなイメージが連想できる場所が全体的に少なくなってきた。こういう中身のあるところを保存しなければいけないと思います。

それから、今パネルになっています吉田邸。それから私が住んでいる近くにある伊藤博文の滄浪閣。私の幼少時代、中学時代は回覧板なんか持っていったわけなのですが、吉田邸よりもはるかにこちらの方がイメージがありました。これからの大磯の発展のためには、観光という視点で、１つの目玉にしていかなければいけないだろうという視点が必要だと思います。マンションが建ち、１つ１つ過去の歴史的文化、それから別荘地、そういったものが衰退していく。そうした中で、吉田邸と古川邸、それから、安田邸、この３邸宅を目玉として、観光ツールとして活用して欲しいと思います。私は、町長くらいの気持ちで保存して欲しいと思っています。この吉田邸というのは貴重な存在です。今、町長さんが一生懸命やってることに対しては感動いたしました。私は、建設省の仕事の下請けなんかをしている関係で、都市計画とか様々なことをやっております。その中で、大磯は、今後のまちづくりをどうしていくのか、その方向性がはっきりと伝わってこない中で、先ほどのお話に出ていましたように、どんどん歴史的な建物が失われていく。これは本当に、我々も侘しかった。今の吉田邸とか古河邸、松本潤さん石碑、大磯港といったものを結び付けて見ていただく。そういうことを考えていくことが必要ではないかなと思います。大磯町は生産力のない町でございます。色々な歴史的建造物を公開して、２００円でも１００円でも入場料をとっていく。そして観光に繋げていく。そのような志で、町民一体となって取り組んでいく必要があろうと思います。

（町長）

ありがとうございました。Ｄさんからも非常に建設的なご意見をいただきました。本日は吉田邸再建についての説明会でありますが、少し、町全体として考えるようにとの激励とお叱りをいただきました。このような事も、今後みなさまにお聞きしていきたい。まちづくりに向けたお話を聞きたい。本日お話していただいたことは、役場のほうにきちっと資料として残し、みなさまにもご覧いただけるようにしておきますので、いつでも来ていただきたいと思います。

まさに今、色々なご指摘をいただきました。計画半ば、はっきりとした設計図がない状態ですが、みなさまが本当に、町の方々が集まれるようなものも実際に造れるのかどうか分からない。このような中で、みなさま、吉田邸の再建というものを、本当に力を合わせてやろうではありませんかと私は提案しているわけであります。どうかご理解をいただき

たいと思います。

時間も随分経ちましたが、いずれこの問題につきまして、みなさまが色々とご意見があれば是非とも役場の方にお尋ねいただき、お話をいたします。しかし、とにかく自分たちが誇りに思っている、世界に誇れる、日本に誇れる吉田さんに対する想いをつなげていきたい、その気持ちをどうぞご理解していただき、今日ここにお越しになってない方にも、沢山のご意見があろうかと思いますけど、この取組みを進めてまいりたいと思います。

ありがとうございます。本日は、本当に長い間お寒い中ありがとうございました。
厚くお礼申し上げます。

平成 23 年 2 月 20 日（日）13:00～15:00 国府小学校体育館において開催した「旧吉田茂邸再建検討状況説明会」の概要は次のとおりでした。

参加者：１８０名（国府小学校体育館）

（中﨑町長あいさつ）

みなさん、こんにちは。

お寒い中、どうもありがとうございました。

少しみなさまのお顔が見えるように、高いところに上がってお話をさせていただきます。

早いもので、町長になりまして、2ヶ月が経ちました。

今、私がやらなくてはいけないこと、最も重要なことのひとつが、正に、旧吉田茂邸の再建検討状況をみなさまにご説明することであります。

昨日、大磯小学校の講堂で説明会をいたしました。約２００名の方が、本当にお寒い中お集まりいただきました。今日、また、こちらの国府小学校の講堂をお借りいたしまして、同じ位の人数の方にお集まりいただきました。

本当に、この町をどういう風にしていくのか、みなさま、熱い思いでお越しいただいたことに感謝申し上げます。

明治２２年、大磯町が生まれて約１２０年が経つと聞いております。昭和２９年には国府町との合併がございました。

吉田茂元首相のお顔はとても穏やかであり、そして、本当に、この町を眺めてくださっているお顔に見えませんか。よく人を食った顔だと仰られますけれども、正に日本の戦後を助けていただいた方、私たちは、この吉田さんがお住まいになった、本当に歴史的に貴重な場所が、残念ながら焼けてしまった。それを何とか再建したいという思いで、前町長の三好さんの時から、基金を募ってまいったところであります。

しかし、今、みなさまに、状況説明会をいたしましたのは、私の公約の一つでもありますし、これは、町全体が一丸となって進めていかねばならない問題であるからであります。今の進捗状況を、どのようにみなさまにお考えになっていただくか、それぞれの思いがおありでいらっしゃる。しかし、心を一つにするために、これまでの全ての状況と現在の状況をみなさまにお伝えしたく、この説明会をいたしました。

本日は、県の平塚土木事務所長さんも駆けつけて下さいまして、現在、県がやれる最大のこと、そして、どういうふうに、県立公園を、そして、吉田さんがお住まいになっていた場所を県立公園としてイメージしているのか、それをお話させていただきたい。それが、最新の、私たちの今のコンセプト・考え方であります。それに基づいて、本日、お話を進めていきたい。このように考えております。

これは、１９８８年の神奈川新聞、古い新聞でありますが、大磯港の外観。大磯町の自然と大磯港の外観が映っております。吉田邸がありまして、この町にお住まいになられた、

歴代の総理大臣の方々でございます。みなさまのお座りになっている左手の方には、神奈川県からお借りしました七賢堂の中に収められていた重要なものが展示されております。お帰りの際には、是非ご覧になっていただきたい。そのように思います。

吉田さんのお顔は、正にとても優しくて、大磯町を眺めているように見えませんか。私にはそのように映ります。本日は、検討状況について説明させていただきます。どうか、最後までお聞きいただきたいと思います。

ここで、一つ情報がございます。それをみなさまにお伝えしたい。

財団法人吉田茂国際基金という法人がございまして、今年の３月で、解散が予定されております。そして、この財団法人が、これまで持っていらっしゃいました、吉田さんの誕生日蒋介石から贈られた「額」ですとか、吉田さんの元気な頃を表す様々な書物、日常のもの、そういうものが、大磯町に寄附されることが予定されております。また、残余財産の清算の時期は、今年の 6 月頃になると聞いておりますが、これも、大磯町へ寄附してくださるための手続を進めて下さっていると聞いております。これが実現しますと、予定では、２億数千万円の金額が、大磯町に寄附されるということになります。そして、その２億数千万円のうちの２億円は、建設の方にまわして良いという内々のお話がございます。しかし、財団法人吉田茂国際基金は、文部科学省及び外務省の管轄にありまして、現在、所管省庁の方で手続を進めて下さっています。そのようなことを、まず、みなさまにお伝えしたいと思います。

いよいよ、再建に向かって、今６千万円弱。私たちが、日本中から、国から、県から、大磯町からの金額の合計であります。そこに、財団法人吉田茂国際基金からの２億円、しかし、その金額がどうであれ、私たちの気持ちが一つになって、吉田邸を再建したい。その心をひとつにしていかねばなりません。

平成２１年の３月に焼失した後、大磯町の議会が基金をつくり、募金活動を始めました。今少し新しい情報、先ほど冒頭に申しました、今ある情報をみなさまに正確に開示します。みなさま、吉田邸にいろいろな思いがあります。子どもたちが学び、若い人たちが学び、戦後の日本をここまでしてくださった基礎をおつくりになった吉田茂さんに対して、私たちの思いがどれほど貴重なものであるか、それぞれみなさまの心は違いましょうとも、それを後世に遺したい。その思いに反対される方は、ほとんどいないと私は信じておりまして、本日、みなさまとともにその事を知っていただき、力強いご賛同をいただきたく、この会を催しました。ありがとうございます。

（山田議長あいさつ）

みなさん、こんにちは。議長の山田です。

このように、吉田邸再建の状況説明会と意見討論会が、中﨑町長の下に開かれたということは、非常に意義があると思います。今まで、再建問題についても、議会の方でも色々議論をし、取り組んできましたけれども、具体的な情報開示については、みなさんも知らなかったと思います。改めて、いよいよ最後の詰めの段階で、こういう集会というか、こういう会が、中﨑町長の努力によりまして、催されることについては意義があると思います。

これからは、いよいよ最後の詰めの段階だと思います。そういう意味で、みなさんとともに、大磯町が誇れる吉田邸の再建をですね、我々の心のこもった、あるいは我々の要望が反映できるような、そういうものにしていくために、お互い力を合わせて、努力していきたいと思っております。

議会のこれまでの取組みについて、色々言われております。取組みが弱いとか言われておりますけれども、今町長が言われましたように、平成２１年７月１日に臨時議会を開いて旧吉田茂邸再建基金条例を決めました。その時に、我々は「決議案」というものを出しまして、大磯の旧吉田茂邸再建への思いについて、議会としてはこういうことだと、明確に町長、そして更には県の方にも伝えていきました。その内容としては、燃える前は、建物の改修については県の方でやってもらう、維持管理については町の方で責任を持つという事務分担のもとに進んでいたわけですけれども、それがたまたま残念なことに平成２１年３月２２日に焼失してしまいました。こういうことを受けての再建の議論がはじまったわけですけれども、私たちは、そういう時に、議会としては町民の意見を受け止めまして、再建の主体は焼失前の役割分担を引き継いで県にやっていただくのが筋だろうと、県の公園でもありますし、焼失後もやっていただこう、そして我々は町民の総意として、寄附を多く募るための基金を設置して県の方にも出来る限り協力していこうではないか、こういうような事を基本的なスタイルとして取り組んできました。

そして、その内容につきましては、具体的にですね、まず、出来る限り再建前の、この保存のようなですね、再建を望んでいるけれども、法律その他の事もあるわけですから、必要最小限、吉田さんが住んでいたところ、更に新館の金の間、銀の間、そういうようなものについては、絶対的に再建していただきたい。その他については出来る限り吉田さんの功績を後世に伝える、そして、町民自らも十分噛み締めて受け止めていただく学習の場、あるいは吉田邸が再建された時に憩える場、こういうようなものも是非その再建の中に盛り込みたい、そのためにも我々は寄附のためにですね、再建基金を集めるために、オール大磯で頑張ろうではないか、こういう形で取り組んできているわけであります。

そういう中で、昨年ですね、平成２２年２月５日の赤坂プリンスホテルでこの旧吉田茂邸再建基金の集会が開かれまして、松沢知事が発言されております。その時にも、大磯の我々議会の意向に沿ったような、そういうものを受け止めたような発言がありました。こ

れは、町民だけでなく、県の、そして、国民全体の価値がある。この業績をしっかりこの吉田邸の再建の中に実現していく。みんなで近代日本史、歴史を学ぶ、そして、これからの生き方に活かしていく、こういうようなものとして、そういうようなものが必要だというようなことが述べられていると思います。

そういう意味で、私たちは、そういうような再建を出来る限り大磯町民の方が一丸となって、その価値を認め、そしてそれを、これからの大磯町の日常の生活の中にも活かしていけるような学習の場、更には観光の拠点にもなっていく、そういうような事を目指すということで取り組んでいくわけであります。

しかし、昨年の２月５日から今日までほとんどその内容は残念ながら具体的な内容として詰めることが出来ませんでしたけれども、今ここで、こういう説明会が開かれたということで、これからいよいよ最後の詰めの段階だと思います。そういう意味で、今後の課題につきましては、議会の中でもいろいろ議論しております。

再建の役割、この再建を大磯町全体の誇りに、そしてこれから誇れるようなものを造るためにも、そして、そのために出来るだけの努力をし合う、こういう協力体制を作っていくことが必要であると思っております。

そういう意味では、再建について、出来る限り町民の声が、あるいは町民の要望が反映されるように、県の方にも厳しい財政事情があるでしょうけれども、是非強くお願いをしていきたいと、そういうような事が必要ではないかと思っております。

そこで、本当にここで再建するには、オール大磯でやるには、みなさんが協力できる体制を、区長会のみなさんも含めまして、議会、再建検討委員会、そして町、そういうオール大磯の体制をつくって、具体的な活動として取り組んでいくことが重要ではないかなと、そのように思っております。

その具体的なものとしても、吉田邸の焼け跡も、今整備されております。３月までは見学が難しいという話を伺っておりますが、その後、見学会をしたり、吉田さんの色々な功績などについても勉強し合う、そういうようなものをですね、具体的に大磯全体で取り組んでいけたら、この吉田邸再建が大磯町のためにも、そしてこれからの大磯町の活性化のためにも、大いに役立つと、私たち議会では議論しているところでございます。

そういうことで、議会としては取り組んでいくということを伝えて、私のあいさつに代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（中島委員長あいさつ）

お寒いところ、どうもみなさまありがとうございます。中島でございます。

このような事に携わらせていただき、麻生代議士とか河野代議士をはじめ、多様な方にお目にかかれる機会もいただきまして、いろいろやってまいったわけですけれども、改めて、何とかしてこの大磯の町民の気持ちを込めた再建が実現したら良いだろうと思ったのは、昨年の１０月２０日に吉田さんのお墓にお参りに行った時の事であります。青山墓地というところにあるのですけれども、そこは、行かれた方もあると思いますが、いわゆる有名人のお墓が沢山ございます。生前に日本の総理大臣を務めた方だから、さぞかし立派な大きなお墓なのだろうと思っていたところが、なかなか見つからない。やっと見つかったところが、我々のお墓と同じようなものでございます。お家族でキリスト教を崇拝していたということもあって、十字架のお墓もございましたが、吉田さんのお墓は我々と同じ普通のさりげなさで佇んでいて、周りの大きなお墓に埋もれてしまうような印象を受けました。しかし、逆に私は「うーん、そうか。吉田さんというのはこういう人だったのか。」という事を非常に感じたわけであります。

思い返しますと、もう亡くなって４０年が経つわけですけれども、単に、大磯に住んでいた８人の総理大臣のうちの１人というわけではございません。今日の日本、私たちが今暮らしている元をつくってくださった大恩人。しかも、聞くところによると、隣接する市長さんは、うちにもああいうものがあったら良いなと仰っていたと耳にしたこともあります。でも、申し訳ありませんが、大磯にあるわけであります。しかも、県立公園ということで、私たちは誰でも自由に入れる場所になるわけであります。そういうところにですね、不幸にして火事で焼えてしまった。何とかして復元して従前のような景観が蘇るように、また、先ほど議長からの挨拶にもありましたけれども、沢山の人達が、若い人達が、いろんな事を学べる、更には、将来に渡って改めてパワーをもらえる、そういう場所として、大磯の宝としても、また国民の宝としても、県の宝としても、我々が何とか頑張りたい。私の本音から言いますと、出来上がった暁には、金の間ですか、吉田さんがおられた処で、何とか一杯飲ませていただけないかな、などと思っているのですが、そういう所が再構されると、町民にとってもどんなに良いだろうか、というような夢を見させていただいております。どうぞ今日はひとつよろしくお願いいたします。

（吉田茂の紹介／大磯町旧吉田茂邸再建検討委員会委員長　中島源吾）

吉田茂さんという方、ご存知の方も沢山いらっしゃると思いますが、ちょっと振り返らせていただきたいと思います。いうまでもなく、内閣総理大臣を務められたわけでありますが、１９６７年、昭和４２年１０月２０日に８９歳で、大磯の吉田邸でお亡くなりになりました。国葬が行われました。戦後初の、昭和に入って２人目の国葬だということです。当日、大磯町では約１万５，０００人の方がお見送りされたと伝えられております。私も、大学生でございましたから、お見送りをした記憶がございます。当日は、本当に朝から晩まで、テレビでこの事が繰り返されて、国中に大変大きな衝撃を与えました。多分、その次に衝撃を与えたのは、この間の火事だったと思います。朝から晩までニュースでやっておりました。

総理大臣だったと言ってもそれがどうした、と思われる方もあるかも知れませんが、吉田茂という方、生まれたのは西南戦争の翌年の明治１１年、１８７８年ということで、お父さんは土佐の武士だった方で、東京で生まれています。３歳の時に、お父さんの親友の吉田健三さんというビジネスをやっている方のところに養子に出されました。ところで、実のお父さんの竹内綱さんは、何と吉田さんが生まれたときには家にいなかった。旅に出ていたというのではなくて、刑務所に入っていたのです。この方は熱心な倒幕の志士だったのですが、西南戦争の時に、西郷さん側に加担したのではないかと疑われて捕まったわけであります。

そして、吉田さんにとって、ある意味で良かった事といいますと、吉田健三さんという方、奥様は江戸時代の儒学者の血を引いております士子（ことこ）さんという方で、ものすごく厳格なお母さんだったらしいですね。吉田さんはガチガチ漢学を学ばされ、後にこれも吉田さんの教養の一部になるわけですが、小さい頃はどうも家では寂しかったらしいですね。と申しますのは、お母さんは非常に厳しいのですけれども、子どもに対する愛情というものはなかったと、ですからよく友達に僕は親の愛というものを知らないとこぼしていたそうです。

吉田さんが１１歳の時に、吉田健三さんが、この方は当時の大きな英国系の商社ジャーディン・マセソン商会の支配人であったわけですけれども、一代で、今でいうと５０億円とも６０億円ともいわれる富を築いた方ですが、突然亡くなられてしまいます。当時の民法では、継承者は吉田茂さんしかおられませんでしたので、数十億円に相当する財産を１１歳の坊やが全部継承したわけです。１０代にして億万長者に、これが吉田さんの一つの骨格を成しているところかなと思います。つまりお金に不自由はしなかったということです。そして何となく色々な学校を渡り歩きますが、あまり自分の将来を真剣に考えなかったようです。しかし、学習院大学に行きまして、この大学、戦前の話ですが、周りの友達のみんなが外交官を目指していたので、何となく俺もやろうかと思うようになってきた。そんな折に、学習院大学の大学部が、当時の学習院の院長が亡くなったということを機会に廃止されてしまいます。吉田さんは、学習院大学の大学部から放り出され、東京帝国大

学の法科に編入されております。まあ、お金に不自由する身でなかったので、２８歳まで学生生活を送っていました。うらやましいですね。

そして外交官試験に受かったわけですけれども、どうも一生懸命勉強しなかったらしくて、成績はあまり良くなかったようです。そして研修を受けて、最初は中国大陸に渡ったわけであります。中国の中で奉天だとか天津だとかいろいろな所の総領事館で勤務いたします。このことが、後年、日本の舵取りをする立場に立つことになりました。何故かと申しますと、当時の中国大陸というのは、今のＧＤＰ世界第２位の大国とは全く違いまして、茫漠たる大地に数限りない民衆がうろうろしていて、政府が３つにも４つにも分かれている。地域によってお金も違うし税金も違う。いろいろな人が入り乱れている。そういう国でありました。中国は大きいですから、何とか影響力を及ぼしたいということで、大国間の激しい縄張り争いが繰り広げられています。ご存知の方も多いと思いますが、上海の方など主だったところはみんなヨーロッパが、大国が占領していて、日本も後から入ってくるわけですけれども、つまり、何処にいても、陰謀が渦巻く、今で言うとちょっとした映画になりそうな、これはまあ、中国の人達には迷惑千万なことでしょうけれども、そういう中で吉田さんは外交官の経験を積んでいったのです。

外交官になった後に、実は外務大臣になり損ないまして、駐英大使になった経緯があるのです。何で外務大臣になり損なったかと言いますと、これが実は吉田さんの、非常に一筋で頑ななところ、私なんかはとても及ばないと思うのですが、当時の政府が進めていた政策に対して、一外務官僚であるにもかかわらず、真っ向から反対します。最初は、満州事変が起こりました時に、日本は当時の国際連盟の有力な会員だったわけですが、みなさまご承知のとおり脱退してしまう。これに対して吉田さんは、そんな事をしたら日本が孤立化してやがて大変な不幸な事になると強く主張したのです。次は、ドイツと同盟を結ぶ話が出てくると、絶対に駄目だと本省に意見具申したのです。何故かというと、当時、地球儀をぐるりと回しますと、どこを見ても必ず英国領がある。大英帝国がものすごい勢力を持っていたのです。そのように世界を制圧している国と対峙してしまうということが、日本にとってどんな意味があるのかと。ドイツというのは、第一次世界大戦の敗戦国なのですが、一見景気が良いように見えたのですね。ただし、冷静によく考えて見ると、世界中に勢力を持ったイギリスやアメリカと敵対することは日本にとって得策ではないという事を、強硬に主張したわけです。こういう態度を示していたことは、当時日本をリードしていた陸軍には“危険分子”とさえ見え、外務大臣などとんでもないということになり、広田首相の計らいで駐英大使となったのです。

しかしながら、このことが、日本が戦争に負けた後、吉田さんに風が吹く理由ともなるわけであります。筋金入りの人であるという。昨日はドイツと仲良くして明日はアメリカと仲良くしようなどという人は沢山いたわけですけれども、そうではない人物ということで注目されることになったわけでございます。

吉田さんは、戦争にならないように努力を重ねました。実は、驚いたことに、外務省を

退職いたしましたのが５７歳ですか、退官した後、アメリカの駐日大使グルーさんとの仲を通して、日本はそんなに変な国ではないと各国代表などを、各方面に必死に説いてまわったのです。吉田さんの奥様、明治維新の元勲でございます大久保利通公の次男の牧野伸顕さんという方の娘さんで、雪子さんという方ですが、不幸にもご病気になられまして、癌でございますが、食事も喉を通らないという時でも、このアメリカの駐日大使の奥様が作られたスープだけは飲んでいたということです。そういう関係を吉田さんは知っていて大事にしていた。そのために、戦争が始まったときに、グルーさんは、その後国務大臣なども務めていますが、アメリカに帰ると、必死で全米各地をまわり、日本人への理解を訴えています。当時は真珠湾を日本が奇襲した直後ですから、大方のアメリカ人は日本などという国は真っ平らにしてしまえという勢いでした。そんな中で、グルーさんは一生懸命、日本はそんなに変な国ではないのだよ。立派な方も沢山いるのだということを伝えて日本への理解を促してくれた。それが戦後の米国の占領政策に寛大な方向性を与え、日本の復興を早めたところもあるのです。

戦後の吉田さんについてはみなさまご存知だと思いますが、戦争中は早く戦争を終わらせようとしていた。このために、吉田さんは吉田反戦からもじった「ヨハンセン」という暗号をつけられまして、憲兵隊、ご存知ない方もあるかも知れませんが、軍隊の警察ですね、特に陸軍から目をつけられまして、吉田さんのお宅には書生さんがいましたが、この人が憲兵のスパイでして、いろいろな情報を東京に伝えるために、ちょうど今の南本町にあったお肉屋さんの「高野」というところに憲兵が来ていろいろやっていたようであります。吉田さんは、昭和２０年、敗戦の年ですけれども、憲兵に逮捕され、４０日ほど牢屋に入っておりました。吉田さんは終戦工作について頑として口を割らなかったそうです。陸軍の刑務所を出られて、大磯に戻った際に、スパイの書生さんが、「刑務所はいかがでございましたか。」と尋ねた時には、「一生に一度は入ってみるのも良いところだね。」と大笑いしたという。それを聞いたスパイの青年は、いやあ、この吉田という人はすごい人物だなと感服してしまったということです。敗戦後、その青年が、吉田さんに、「実は私は、貴方の動静をさぐる任務で奉公していたのです」とお詫びすると、「そうか、それで君はこれからどうするのだね」と尋ね、青年が「実は何も仕事が無いのです」と告げると、「ではうちに来て働きたまえ」と言って、結局青年は書生として働いたと。吉田さんは、そのような人物であります。

ところで、吉田さんご本人は、政治家になるのが嫌だったそうであります。

大体自分は人に頭を下げるのは嫌だ。そういう男だから向いていない。選挙なんかでいちいち頭を下げたくないと。そして、無理やりに選挙に出されたわけですけれども、オーバーを着たまま、ポケットに手を突っ込んだままで演説をしたら、「お前何だ、選挙に出たら外套を脱いでちゃんとやれ」という野次が飛んだ。そしたら、吉田さんは、「これが、本当の外套（街頭）演説だ。」と切り返したそうであります。こんな皮肉で切り返す辺りは、今の政治家とはちょっと桁が違うかなという気がします。また、国会で演説している時も、

本会議場でですね、前の方に来ているカメラマンが、今とは違いまして、昔はまあご存知だと思いますけれども、すごい眩しい色のマグネシウムをパンと点けて写真を撮るのですが、あまりにも何回もやるので、「うるさい。」と言って水をカメラマンにぶっかけたそうであります。今ではちょっと考えられない事でございます。

総理在任中は、結構新聞が批判をしまして、早くやめろと言われていたのですが、不思議なことに人気が出てきて、その独特な人柄といいますか、だんだん受けが良くなってきました。総理になる時も、俺は絶対総理にはならない。大体俺は譲歩するのも嫌だし、嫌いな人に頭を下げるのも嫌だし、金を作るのもやらんと言っていたわけです。けれども、実は騙されて総理になってしまった面もあるわけですね。吉田さんの娘さんに、九州の麻生家に嫁いだ和子さんという方がいて、吉田さんが非常に信頼していた人物なのですが、お父さんは絶対総理なんかになってはいけない。人とうまく付き合うこともできないし、人を信用することもできない。だから向いていないということで反対していました。そこで、総理にさせようと一計を案じた方が、実は和子さんも総理になっても良いと言っていますよ。と嘯いて、吉田さんはだんだんだんだん断る理由がなくなって、とうとう受けてしまったのですね。和子さんは最後まで駄目だと言っていたそうでありますので、吉田さんは騙されて引き受けてしまったということになろうかと思います。

そういうことで、今日、もちろん忘れてならないのは、当時の日本が戦争に負けて、連合国の占領下におかれた事。今の若い世代、私は昨年まで明治大学で教えていたのですけれども、丁度ここに来られた数くらいの学生さんたちのクラスを２つ受け持っておりました。その時、聞いたことがあるのですが、私が高いところから話すのが嫌いですから、通路に出て聞いてみた。最近の学生はいろいろな事を知っていると思っていたのですけれども、驚いたことに、色々聞いてみると何も知らない。もちろん、山本五十六と聞いたときには、ほとんどゼロですね。連合国軍、日本が戦争に負けたという、これも知らない学生がいた。本当の話でございます。何を勉強してきたのかと。ましてやアメリカと戦争したという事も、みなさま疑うかも知れませんが、知らない。実はアメリカだけではなくて、五十数ヵ国の連合国軍と戦って負けた。ですから、降伏文書も大変だったですね、みなさまもニュースで見られたと思いますけれども、東京湾で、ミズーリという大きな戦艦ですけれども、その甲板上で、日本の重光葵外相が敗戦のサインをしました。そこから、ＧＨＱによる占領は７年間続くわけであります。そういう中で、日本は再出発しなければならなかったわけであります。それで、吉田さんの、みなさまが一番知っているのは、サンフランシスコ平和条約を結んで日本の独立を回復したことです。独立といったって、日本は神の時代からずーっと日本じゃないのよという方もいらっしゃるようですが、独立していない頃の日本、負けた直後の日本というのは、まず、日の丸の旗を揚げられない。禁止でございます。それから、船なんかもですね、必ず国旗を掲げないと無国籍船になってしまうのですけれども、国旗を掲げられないのです。それで、国際標準認識標のような変なものを立てて、それでないと動けない。そして、日本人は、海外旅行は禁止でございます。

最近は年間に、パスポートを持って外国に行かれる方は１，５００万人～１，８００万人と言われておりますけれども、１人も行かれないのです。政府はありましたけれども、最終的な事を決めるのは、全部連合国軍総司令部（ＧＨＱ）で、お馴染みのマッカーサーという方でございます。しかし、そういう中で、吉田さんは非常に強気でありました。アメリカ何するものぞということで、臆することなく、毅然と渡り歩いていったのです。

そして、日本の独立をずっと辛抱強く、どうやったらできるかを考えておりました。その答えが、サンフランシスコ平和条約でございます。残念ながら、会議には出席したのですけれどもソ連の代表は帰ってしまいました。従って、ソ連抜きで締結したのですけれども、このことについて、日本のマスコミは批判したのですよ。吉田内閣けしからんと。全面的に世界中の国と一緒に講和するべきだと。でも、吉田さんは、それを待っていたのでは、何時になるか分からないということで、部分講和の道を選びました。この選択が、言うまでもなく、今日になって正しかったということになるのは、どなたも分かることであります。このような大功績がある方でございます。ただし、ご批判をする方は、吉田さんは日米安全保障条約も結んだではないかと、確かにそうではありますけれども、吉田さんは、当時の敗戦後の日本の国力で軍隊というものを持つというのは無理であると、まずは国を、ある程度経済的に復興しなければ、軍隊を支えられない。それに、当時は、旧陸軍の中将以下の上級将校の方々も沢山いらして、虎視眈々と日本の再軍備を狙っていたのです。それは戦前の日本に戻すということであります。吉田さんは、絶対にそれはいかん、戦前の日本に戻してはいかんと、当時、日本の有力な政治家で、そうしたいと思っていた方もかなりいたのです。でも、吉田さんは、それだけは絶対駄目だと、日本は生まれ変わらなければ、もう軍隊が国を動かすようなことをはいかんという、そういう信念を貫きました。しかし、防衛大学校という、陸海空の幹部を一緒に教育する大学が発足した時に、実は、お忍びで、吉田さんは防衛大学校にしばしば行ったのです。そこで、君たちこそが、これからの日本を守る力となるのだからということで、激励しております。そういう方であります。

スライドに出ている日米安全保障条約のサインですが、日本側は吉田さんのサインだけです。この条約の事で、他の人に害が及ばないように、この事で何か批判されたら、自分が責任を負うのだということであります。サンフランシスコから帰ってくる飛行機が日本に近づいた時、吉田さんは窓に顔を擦り付けるようにして、富士山を眺めて泣いておられたというのですね。そういう人情のある方でございます。

よく、俗にですね、吉田さんは新聞は英字新聞しか読まないとか、ウイスキーしか飲まないなどと言われましたが、嘘でございます。

吉田さんは野本胡堂の銭形平次捕物帳も大好きでした。ウイスキーをよく嗜まれていたのは本当ですけれども、土佐の銘酒「司牡丹」など、日本酒も大好きで、よく大磯の豆腐屋さんに買いの行かせ、湯豆腐を食べていたそうです。

みなさまの中には、吉田さんが生きていた頃にお会いになった方も沢山いらっしゃると

思います。今、スライドに富士山が映し出されておりますけれども、吉田さんが亡くなる前の日に、娘さんの和子さんに起こしてくれと頼んで、そして銀の間ですね、復元の対象になっていますけれども、そこからじーっと富士山を見ておられたそうであります。

非常に話題の多い方であります。お医者さん、主治医の武見太郎さんという方にかかっていたのですけれども、日本の医師会のボスでありますが、一度、８０歳を過ぎてから倒れて危篤状態になったときに、武見さんが駆けつけたところがですね、吉田さんがガチッと目を開けて「フッフッフッ、ご臨終に間に合われましたね」と瀕死の病人の癖に強気な事を言ったそうです。ところが、武見さんは「あんた、まだ生きていたいと言うか」と切り返したという、こういう日本人がいたのですね。

私たちは、その同じところに住んでいたのだという幸せを子どもたちに遺せればありがたいな、と思います。兜門は燃えないで残っておりますけれども、サンフランシスコから帰って講和門と名付けたそうでありますが、ここを自由にくぐってですね、吉田さんの部屋を歩いて、まずは吉田さんの場所を、そして建物をこの目で見れるように、ここが日本の中心だったのだと、子どもたちが確かめることができるように、郷土について自信と誇りが持てるように、何とか私たちの世代の責任としてこれを復元したいなと願っている次第でございます。

昨年の地区ごとの説明会では、自分は国葬の時に街頭で旗を振って見送ったとか、実際に生きていた頃の吉田さんと話をしたとか、庭の手入れをしたときも、「あそこを切れとか、ここを切れ」などと言われたとか、そういうお話をされる方もいらっしゃいました。これまでは、偉い人のお屋敷でありましたけれども、今度は県立公園になる。つまり誰もが入れる所になるわけでございます。そういうことで、いつでも入れる。誰でも入れるということで、ちょっと我々も一口乗ろうではないかと、そんなふうに眺めていただけるとありがたいなと思います。ありがとうございました。

（旧吉田茂邸の現況報告／神奈川県平塚土木事務所長　浅羽義里）

県の平塚土木事務所長の浅羽でございます。本日はよろしくお願いします。

私の方からは、旧吉田茂邸を中心とした区域で、どのようなイメージで公園ができるか、また、今後の予定についてお話させていただきたいと思います。

スライドをご覧ください。位置関係から申しますと、これが、国道１号でございます。

国道１号の北側に既存の大磯城山公園がありますが、この公園の南側、道路を挟んで南側、広さは約２．９ｈａございます。

平成２１年の７月に都市計画決定をしまして、この区域を、既存の公園区域と合わせて、全体で約９．９ｈａの区域となります。

国道沿いからは見えないと思いますので、ちょっとどんなイメージをもって整備しているのかご紹介いたしますと、この中心の黄色の部分に旧吉田邸がございました。それで、その下、黄緑色について、今、日本庭園を復元しようということで工事を進めているところでございます。それから、南側の緑色の部分、こちら側については、七賢堂ですとか、吉田茂さんの銅像があるところですが、ここの松林はこのまま残して、この中に園路等を造ろうと、今工事をやっています。それから、中心の黄色の部分と南側の緑色の部分に挟まれた赤い部分については、少し、広場ですとか、散策路を整備して、先ほど兜門がありましたけれども、兜門に続いて、みなさまが散策できるような形にしたいということでございます。国道の南側の青色の部分については、駐車場ですとか、管理棟、バラ園等を造ろうと思っておりまして、全体の２．９ｈａの用地の取得は終わっております。約１７億円で取得しました。

現在の工事は平成２１年からやっておりまして、現在、周辺の管理用の柵ですね、２ｍ位の高さで４００ｍ位ですけれども、この柵をやっているところでございます。

それから、この日本庭園を復元するため、今、ここに樹木が１２０本程度ありますが、かなり強い剪定をして、かなり小さくまとめたところでございまして、これから伐採した木に、段々新芽が出てきますので、新芽が出てきた段階で形を整えていこうと、こういう思いであります。

工程表をご覧ください。平成２１年度からずっときて、日本庭園が出来るのが平成２４年度末ぐらい。その時期になりましたら、一部開園をさせていただきたいと思っております。

先ほどのスライドをご覧いただきたいのですが、ここが旧吉田茂邸のあった場所でございますが、旧吉田茂邸の復元方法、今、町さんといろいろ検討しておりますけれども、ここにつきましては、後ほど、大磯町さんの方からご説明があろうかと思います。

現在の全体事業を進めるに当たって、国の補助金等もありますので、認可をいただいておりますが、旧吉田茂邸の復元方法や費用というのは未だ決まっておりません。中身は未だ決まっておりませんので、事業認可の対象に含まれておりません。

こちらのスライドが、現在の旧吉田茂邸の跡地の状況でございまして、焼失して片付け

た後は、本当に基礎だけが残っていると、ここは、金の間、銀の間のところでございます。

このような状態になっております。

こちらのスライドをご覧ください。これが、随分昔の、昭和４１年当時の正面から見た写真でございます。かなり手入れがきちんと行き届いておりますので、日本庭園の木がすごく小さいのですが、非常に良い形でまとまっています。それから、こちらが平成１９年当時の写真でございます。やはり、木がかなり大きくなっていて、少し密集している状況になっております。現在は、こういう木の枝をかなり刈り込みまして、小さくしております。今後、２年ほどかけて、しっかり形を整えて昭和４１年頃の写真のような状態に戻していきたい。このように、今、こつこつとやっている最中でございます。

現場では、今かなり車が出入りしておりますし、色々な業者も入ってガタガタしております。そのような状態なので、ちょっと中に入ってご覧になることはできませんが、また、きちんとした状態になればですね、みなさまにご覧になっていただきたいと、こういうふうに思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

（再建検討状況の説明／大磯町政策課長　相田輝幸）

本日は、お寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、こちらのプロジェクターを使いまして、みなさまに、旧吉田茂邸再建の検討状況について説明してまいりたいと思います。

それでは、こちらのスクリーンをご覧ください。

旧吉田茂邸の焼失写真でございます。

平成２１年３月２２日、今から約２年前でございますが、大磯町の名誉町民であり、戦後の日本復興に大きく貢献されました吉田茂元総理の本邸が原因不明の火災により焼失しました。本邸脇にあるサンルームへの延焼は防ぐことができましたが、およそ 300 坪の邸宅が全焼してしまいました。

焼失前における旧吉田茂邸は、敷地を神奈川県が購入し、建物は所有者から県が寄付を受けるということで、県立大磯城山公園の拡大区域として整備し、本邸については、町が維持管理を担っていくという方針が決まっておりましたが、本邸焼失という事態を受けて、改めて検討していくことになりました。

旧吉田茂邸の位置図です。皆様ご承知のことと存じますが、現在の県立大磯城山公園の南側に位置しております。北側が国道１号、西小磯と中丸の境に位置しております。国道１号沿いに小高い山があり、その山の南側に本邸がございます。敷地面積は３.３ｈａ（10,000 坪）、延床面積は約 1,000 ㎡（300 坪）でございます。

国道１号からは、矢印に沿って兜門を通っていくという経路で本邸に至ります。

こちらは、焼失前の旧吉田茂邸を、西側の日本庭園から撮った写真です。

ここで、少々お時間をいただいて、旧吉田茂邸の玄関ホール、応接間棟、食堂、金の間、銀の間について、ご紹介させていただきたいと存じます。

まず、本邸を西側正面から見た写真ですが、植木に隠れて見えにくい部分もありますが、向かって真ん中に位置する部分が①の玄関ホール、その右に位置する２階建ての建物が②の応接間棟、玄関ホールの左側、二階建ての建物に見えますが、下の部分が③の食堂（ローズルーム）、上の部分の右側が④の金の間、左の部分が⑤の銀の間でございます。

まず、玄関ホールですが、こちらが、玄関ホールの写真です。

左手に見えるガラス張りのところが、中庭。奥が応接間棟。スリッパが並べてあるところの右側が玄関です。

中庭の写真です。なお、玄関まわりは、建築家吉田五十八氏が改修した部分と言われています。

吉田五十八氏は、昭和の戦前に、西欧建築と日本の伝統的数奇屋建築を融合させた独自の近代数奇屋建築を確立させた建築家で、昭和２７年に日本芸術院賞を受賞し、昭和４９年の逝去の際には勲一等瑞宝章を受けました。

主な作品として、外務省飯倉公館、成田山新勝寺大本堂、東京歌舞伎座、明治座などがあります。

なお、吉田五十八氏が手がけた四代目東京歌舞伎座は、現在建替をしております。

また、東名高速道路御殿場インターチェンジの近くにある東山旧岸邸（第 56･57 代首相岸信介の自邸）も、吉田五十八氏の設計で私的空間と公的な接客部門とを分ける工夫が施された近代数奇屋建築によるものでございます。

次に、応接間棟ですが、こちらは、応接間棟の１階、「楓の間」の写真です。

「楓の間」は、畳 40 畳分（66 ㎡）の洋間で、天井が船底の形をしております。

天井の梁は長さ５間（9m）の北山杉で、京都の５つの山を探して持ってきたものだそうです。当時の価格で１本 100 万円から 200 万円したと言われていますので、現在の価格に換算すると、約 700 万円から 1,400 万円ということでしょうか。

写真の左の方にある暖炉は大理石で、床の間は赤松の一枚板です。

１９７９年（昭和５４年）６月２６日には、大平首相とカーター大統領の日米首脳会談がこの部屋で行われました。

こちらは、応接間棟の２階部分の写真です。吉田茂氏が首相在任中に執務室として使用されておりました。また、書斎コーナーのガラス棚の一番下の引き戸の中には、ダイヤルのない官邸直通の黒電話が備えられていました。

奥の浴室には、かつて大磯の浜辺で良く見られた漁師の舟の形をした、檜の一木を刳り貫いて造った浴槽があり、床は板敷になっていました。

次に、食堂（ローズルーム）ですが、こちらが、食堂（ローズルーム）の写真です。

建築家吉田五十八氏の設計で、写真の左手北側の窓から見える木立の奥から滝が流れるようになっており、お気に入りの来客の時には滝を流していたと言われています。

西側のガラス窓の引き戸は、壁の中に収納できる設計で、全開することができ、ここからの富士山の眺望は素晴らしいそうです。写真奥の壁紙には、仔羊のなめし革 231 枚がパネル状に張られており、当時の価格で一枚１万円と言われる高価な仕様だそうです。現在の価格に換算すると 231 枚で 1,000 万円ということでしょうか。

写真の中央奥にある衝立ですが、蒋介石から寄贈されたもので、ガラスの内側には山水が彫られ、色彩が施された国宝級のものだそうです。

次に、「金の間」ですが、こちらが、「金の間」の写真です。

こちらも建築家吉田五十八氏の設計で、吉田茂氏が、当時、アイゼンハワー大統領の来日時に利用できるように増築した部屋です。しかしながら、同大統領の利用は実現されなかったということです。また、１９７９年（昭和５４年）の大平首相とカーター大統領の日米首脳会談も、この部屋で行うことが予定されていましたが、見晴らしが良く、狙撃に対する安全が確保できないとの理由で、先ほどの説明で触れましたように、直前で「楓の間」に変更されました。

次に「銀の間」ですが、こちらが、「銀の間」の写真です。

こちらも、吉田五十八氏の設計で、吉田茂氏が息を引き取った部屋です。天井にはレース紙と銀色の布が使用されていました。

長くなりましたが、旧吉田茂邸の主な部屋の説明を終わらせていただきます。

ここで、旧吉田茂邸の再建に向けて、神奈川県、大磯町で設置している検討組織をご紹介します。神奈川県の「旧吉田茂邸再建検討会議」ですが、構成委員は、県土整備局の建築住宅部長をはじめ、県庁内の関係各課の職員と大磯町の職員で構成されています。次に、神奈川県の「旧吉田茂邸再建検討委員会」ですが、構成委員は東京農業大学で日本庭園史を専門にされている先生、関東学院大学で日本近代住宅史を専門にされている先生、東京大学大学院で建築工学を専門にされている先生、國學院大學で日本近代史を専門にされている先生、東京農業大学で公園計画学を専門にされている先生など、主として学識者で構成されています。次に、大磯町の「旧吉田茂邸再建プロジェクト」ですが、構成委員は、副町長をはじめ町職員で構成されています。次に、大磯町の「旧吉田茂邸再建検討委員会」ですが、構成委員は、町民で構成されています。大磯町の「旧吉田茂邸再建特別委員会」ですが、構成委員は、町議会議員で構成されています。

本日は、ただ今ご紹介しました検討組織における議論や法的課題などを踏まえた旧吉田茂邸再建の検討状況をご説明させていただきたいと思います。

まず、現在の状況ですが、旧吉田茂邸の跡地につきましては、県立大磯城山公園の拡大区域としての整備が進められております。平成２１年７月に都市計画決定が告示され、平成２１年度に敷地の大部分を神奈川県が購入しております。公園整備工事につきましては、現在早期開園を目指して整備中でございます。

なお、本邸につきましては、県が再建するのか、町が再建するのか、あるいは再建後の本邸の維持管理はどちらが担うのかといった役割分担や、実際の再建の規模がどの程度になるのかといったことは今後の検討課題であります。

次に、現在の旧吉田茂邸再建基金の状況ですが、こちらのグラフは募金額の推移を月ごとに表したものであります。２月１５日時点で 57,850,615 円となっております。

次に、これまでの経過ですが、まず、「旧吉田茂邸の再建に向けた要望書」ですが、これは、平成２１年７月１日に基金条例を設置したすぐ後の平成２１年７月９日に、当時の町長、町議会議長及び町の吉田茂邸再建検討委員会の委員長とで神奈川県庁を訪れ、副知事に直接手渡したものでございます。

神奈川県知事宛ての要望書で、内容につきましては、町議会や町民から提出された意見を尊重して内容の検討を行い、大磯町の総意を示すものとなっております。

要望書に添付した図面はこちらでございます。旧吉田茂邸が有していた貴重な歴史的空間を再現し、多くの人々が訪れ、利用できるようにすることで、戦前戦後の日本が歩んだ歴史や近代政治を学ぶ教育の拠点になると考えます。という内容を記したうえで、西側正面玄関ホールから入って、右側の応接間棟、同じく玄関ホールの左側の食堂、その奥に位置する金の間・銀の間といった新館部分を有料見学ゾーンとして位置付け、木造で可能な限り焼失前の佇まいを忠実に再現してほしいという内容の要望をいたしました。

また、旧館部分やベランダ棟につきましても、可能な限り焼失前の姿に再現して、来園

者の休憩所や地域交流を図るゾーンとして利用したいという内容の要望をいたしました。

なお、可能な限り焼失前の姿に再現できることを望みますが、町の財政状況は厳しい状況が続いているため、県が主体となって再建していただきたい。ただし、再建後は大磯町にとっても町の魅力を高める重要な拠点となりますので、町が建物の維持管理を担ってまいりたい。また、少しでも焼失前の姿に再現できるよう、全国に寄附金を呼びかける。」といった内容を要望書に盛り込んでおります。

さて、大磯町からの要望の内容も踏まえまして、旧吉田茂邸の再建について、法的な対応や歴史的な価値など様々な角度から多角的な検討がなされてきました。

その結果、旧吉田茂邸の再建への理解を深め、募金活動を盛り上げるために、昨年２月５日に東京の赤坂プリンスホテルで開催された「吉田茂と大磯の歴史的魅力を考えるシンポジウム」の松沢知事のあいさつの中で、「建物の再建については、大磯丘陵の照葉樹や庭園と一体となった景観イメージを重視し、今後も検討を進めたいと考えています。」と話されておりましたように、再建にあたっては、庭園から見た日本庭園と建物との一体感のある景観の再現と戦後政治史の舞台となった歴史的空間の再現を重視して検討しています。

神奈川県で設置している「旧吉田茂邸再建検討会議」では、再建の概念や法的・技術的な課題についての検討を行い、再建の検討範囲については、中間的なとりまとめとして、図のようなイメージを描いています。

再建イメージは、

①として、「再建の検討範囲を、重視すべき視点から、応接間、玄関ホール、食堂、金の間、銀の間とする。」

②として、「再建にあたっては、法の規定により完全復元が難しいが、可能な限り焼失前の形態、仕様の復元をめざす。」

③として、「旧館・ベランダ棟については、後世の再建を阻害しないよう、建築物は設置せず、礎石広場とする。」

④として、「焼失を免れた温室は、一般公開する場合には、現行法に適合する最低限の改修を行って存置させる。」

といった内容となっております。

これは、日本庭園と一体となった景観と吉田邸が有していた歴史的空間の再現をめざし、この部分は再現していきたいというものでございます。なお、旧館部分は、焼失前の建物の配置が想像できるように、基礎の部分をそのまま残した広場にするということで、図面上、「礎石広場」と記載されております。

引き続きまして、再建する建物をどのように利活用していくのかということですが、ただいまご説明しました再建イメージは、玄関ホール、応接間棟、食堂、金の間、銀の間の再建をめざしていくということを意味しております。しかしながら、建物を管理運営していくうえでは、事務室や展示品の収蔵スペースなども必要になってくると考えますので、建物管理機能を設けていく必要があると思っております。

次に、玄関ホール、応接間棟、食堂、金の間、銀の間の再建をめざすということで、平成２１年７月９日に町から要望した「見学ゾーン」の部分は再建の検討範囲に含まれております。一方で、町から要望していた「地域交流・休憩ゾーン」の機能は備えることができないのかという点ですが、吉田茂氏の邸宅を再建するということに最大の意義がありまして、旧吉田茂邸が有していた貴重な歴史的空間を再現し、その中で、吉田茂氏の事績を通して戦前戦後の政治史に触れることができるような、吉田茂性が濃い建物の再建をめざしております。したがいまして、本邸があった場所に、建物の管理運営上必要な室以外の、吉田茂との関連性が薄いものの建築は困難であると考えられております。

ここで、再建後の吉田茂邸をどのように利用していくのかということに関連して、ここで、昨年２月５日に東京の赤坂プリンスホテルで開催された「吉田茂と大磯の歴史的魅力を考えるシンポジウム」のパネルディスカッションにおいて、松沢知事が発言された内容の一部をご紹介したいと思います。

「再建に向けての計画を町と県と一緒に考え始めました。今、町長を中心に多くの浄財を募ろうと活動しています。また国民の皆様に吉田茂という政治家、あるいは戦後の日本の復興に向けて政治の舞台となった歴史的価値のある場所、これを国民の財産としてみんなで力をあわせて再建して、後世に伝えていく、国民運動にするべきだと考えています。神奈川、大磯という地域がいただいた歴史の贈り物を大切に後世に伝えていく、そして将来多くの皆さんが国内外を問わず再建された吉田茂邸に訪ねていただいて、そこで吉田茂の生き方、あるいは日本の戦後政治史、そういうものを学んでいただける場にしていきたいと思っております。」「吉田茂邸を設計図のままに再建することは困難です。そのまま復元するのではなく、門や七賢堂は守られていますからその中や外見も少し長持ちする建物にして、戦前戦後の吉田茂が生きた時代の図書館的機能があるのも良いと思います。資料の貸し出しや、中学生、高校生が近・現代史を勉強する中で歴史に興味を持ってもらう、臨場感あふれる建物の中で資料を見ながら歴史を感じることができる場に再建できればと思っております。」と話されておりました。

要約しますと、

・　戦後の日本復興に向けた政治の舞台、歴史的価値のある場所
・　歴史の贈り物を大切に後世に伝える
・　吉田茂の生き方・日本の政治史を学ぶ場
・　図書館的機能があるものも良い、中学生、高校生が臨場感あふれる建物の中で近・現代史の資料を見て感じとる場

ということでございます。

こちらのスクリーンの内容は、お手元にお配りした次第の裏面に同じものを用意させていただきましたので、ご覧ください。町としても、吉田茂氏に関連する映像や、資料、遺品などの展示、専門家による勉強会等を行うことによって、吉田茂氏の政治的業績を通して近現代史を学ぶ学習施設として、また、大磯の自然と日本庭園、そして本邸とが一体と

なった景観の中で、吉田茂氏が居住していた頃の生活空間と国内外の要人と交流していた空間を再現することによって、吉田茂氏が住空間に求めた美意識を感じとり、また、戦後政治史の舞台となった歴史的空間を味わうことができる体験施設として、「人間　吉田茂」と「舞台　吉田茂邸」を肌で感じとることのできるような体験学習施設としての機能を備える必要があると考えております。したがって、そのような機能を設けるために、町としましては、今後、神奈川県のご協力をいただきながら、引き続き検討を進めてまいりたいと思っております。

以上で、ご説明を終わらせていただきます。

（再建の意義とコンセプト／大磯町長　中﨑久雄）

みなさま、ただ今、政策課長がご説明しました。

県が西武の方から旧吉田茂邸の譲渡を受ける、その過程で焼失した。その再建に向けたこれまでの経緯を、正に情報公開といいますか、きちんとした形で、はじめて町民のみなさま方にお伝えすることができた。と私は思っております。そういう機会が今までなかった事を大変申し訳なく、大磯町旧吉田茂邸再建基金にご協力をお願いします。とその横断幕に書いてございますが、みなさまにお願いしてまいりました。しかし、県が建てるのか、町が建てるのか、どれぐらいの予算で建てるのか、町の方で、自分たちが利用できるような、そういう施設も建設できるのか、みなさまの色々なご意見があったと思います。そしてまた、その管理の詳細についても、今後そのような建物が出来たときに、私たちが担っていこうとする管理等の詳細にわたる多くの事が、これからだよという事が今日の話。大変申し訳ない要素がございますけれども、お話を申し上げました。私の今日のまとめ、それは、しかし、平成２１年の３月に焼失した後、町が議会の決議として再建をしていくための基金をスタートした。その過程の中で、町の動きとして進めてまいりました。

知事がお話された事、前町長がお話された事、大磯町にとりまして、吉田茂さんの功績をこの町の誇りとして、私たちには本当に必要であると感じている１人で私はございます。みなさまの中にも、再建の方法はいろいろあろうとも、是非ともこのことはやっていかねばならぬと、そういう思いがきっとお感じいただいているであろうと私は思います。町の方針としてこれを受け継ぎ、さらにそれを県とともに推し進めていく。そういう力を、是非みなさまとともに、後世の子どもたちのために、そして孫のためにも、私はやっていきたい。そのように考え、本日の説明会をやらせていただきました。

再建の意義とコンセプトと申しましたが、政策課長が最後にお話を申し上げましたし、本日、お配りした資料の中にも、施設の必要性というものを書いてございます。何か、私たちが、吉田茂さんが戦後の日本に残したもの、それを私たちの宝物として、日本の、世界の、子どもたちに伝えていかなければなりません。これを、今、大磯町に遺すと、万が一にも失くしてはならない。そういう思いはみなさま一緒でありましょう。しかし、どういうものが、どのような形で建てられるのか分からない。そういう中で、協力できるか。そういうご意見は多々あると思います。しかし、それは今、通過点として考えてみようではありませんか。いつか、今申し上げたような形で、どのような形で、どのようなものが大磯町の、そして県立公園の中に出来るか、それは、私たちが本当に力を合わせ、私たちの浄財をお示しして、県に訴え、国に訴えて、大きな形にしてやっていくのが、それが、今、私にある務めであると思っております。お考えいただきたいと思います。

昨日、大磯小学校でお話を申し上げた時にも、いくつかご意見をいただきました。はっきりした形がない中で協力をお願いすることに、みなさまへの申し訳なさは十分感じておりますが、今、動き出した、この動き、本当に力をお与えいただき、進めていきたいと考えております。これから少し時間がございますから、いろいろなご質問をいただいて、お

答えしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私に答えられること、事務局に答えられること、県の方にも今日はいらしていただいております。県は本当に一生懸命やってくださっていただいております。やがて整備をした後、県立公園を見れば、きっとみなさまは、心をうたれ、何とかせねばならぬというお気持ちにきっとなっていただけると思います。早い時期に現地をお見せいただけるように県に申し上げております。

どうぞ、どんなお考えでも、どんなご質問でも、遠慮なくお話いただけたらと思います。情報公開と私は敢えて申し上げました。この資料は、役場の１階に、今後きちんと備えてまいります。みなさまが思っていらした以上に物事が決まっていないという思いはきっとおありだろうと思います。みなさまの中に色々なご質問があれば、これはパブリックコメントもしくはアンケートとして、今後、町の方からご意見をいただき、我々の希望を県に伝える。県立公園の中にそれを建てていく。欲しいという希望を伝えていく。これは可能であります。しかし、町が先頭に立ってやらねば、これは出来ません。これははっきりしています。もう、ここまで、町は６，０００万円近くを、日本中から全国からいただいてきたわけでありますから、頑張ってやろうではありませんか。

＜ 意 見 交 換 ＞

（Ａ氏）

私から２つばかりあるのですけれども、１つは、５億円という基金の目標額があるのですが、これを町民の世帯数で割ると３万円から４万円というお金になるわけですが、そんな簡単にそれ程のお金を出してくれというのはちょっと無理だと思うのですが、何でそんな５億円という金額を目標にしたのか。それを何に使うのか、全く説明がない。やはりそれだけの大きなお金なのですから、こういうことに使っていきたいのだと、そういう説明が何にもなしに、ただ５億円を集める。私も地域の先頭に立っていろいろ寄附集めをやってきましたけれども、だけど、どういう目的で何を造っていくのか、いくらぐらいの物を造るのか言わなければ出来ないのではないかと思います。

それともう１つ、今の状態だったら、私も議員さんと同じようにお金を出したくない。本当に。再建には賛成です。やってもらいたい。だけど、今の状態だったら、私は一銭も出せません。決議して寄附を出してくれと言った人間が一銭も出さない。こんなことをやっていたら、私だって出しませんよ。私に出させるような、本当に、議員さんがお金を出せないと言うのだったら、駅前に出て募金箱持って、お願いしますとやってくださいよ。お金出せないなら、知恵出して、汗かいて、お金集めるような工夫をしてください。

（町長）

ただ今、ご質問がございました。寄附の目標額を５億円という金額に設定した事について、事務局から説明をさせます。

（政策課長）

ただ今のご質問の５億円の件でございますが、まず、焼失する前、建物を修理してきれいにして開放しましょうとした時に計算されていた金額が約１０億円でございました。それで、１０億円という建物にかかるお金をどうするかというと、国からの補助金とあわせて県に出していただいて修理していただく。それが、焼失してしまったわけでございまして、平成２１年３月２２日ですが、焼けた後、知事がすぐに飛んで来られて、再建を目指したいと仰られました。それで、当時の町長も、議会のみなさまも、それから町の団体のみなさまも集まって再建に向けてやっていこうということになりました。それで、建てるとなると、やはり同じくらいの金額がかかるでしょうと、１０億円位であろうと、そこで、その半分位の浄財を集めて県にお届けしたい。そういうことで、５億円ということになりました。そして募金活動を始めたわけですが、日本全国に向けて発信していきたいということで、実際にですね、日本全国の都道府県、市町村に案内をさせていただいているところでございます。

（副議長）

再建特別委員会の委員長をやっております。

いろいろな意味で誤解がありましたので、ちょっとここでもう一度ご説明させてもらおうかと思っております。

昨日も、議会は当初反対していたと、全く誤解なんです。一昨年ですか、急遽、寄附金条例をつくりたいと町が言ってきたわけであります。しかし、誰が造るのか、どういう規模の再建をするのか、金がいくらかかるのか、全くわからないわけです。とりあえず、金だけ集めたい。我々も質しました。おかしいだろうと。何かものを造るためにお金を集める場合には、この位のお金がかかる。どうしてもこの位の金は不足するからと、それだったら町民のみなさんからもですね、協力を得ようよと、それで、町に対してあと１ヶ月待ってくださいよ、1ヵ月後に議会が開かれるのだから、その時までにしっかりしたですね、県と町が交渉してくださいよと言ったにもかかわらず、町が強引に臨時議会を開いて、我々はまだ説明不十分という事を指摘したら、議会は反対していると。しかし、我々は全く反対していないという事で、急遽、町側と交渉して、その後特別委員会をつくって、全員賛成で吉田邸を再建してもらおうということにしたのです。それをああじゃない、こうじゃないと言ってきたのです。ただ、今、政策課長が言ったように、５億円という根拠の十分な説明がなかった。議員の一人がですね、当時の町長に何で５億円なのだと言ったら、取り敢えず５億円集めたいと。そんな馬鹿なことはないだろうと、大喧嘩しました。大事な事なので、お互いの傷をみなさんに曝け出して申し訳ないですけれども、いずれにしても、いろいろな誤解があって、残念ながら、まだまだ、さっき言ったように、県が造るのか、町が造るのか、それすらさっぱり分からない。どういう建物にするのかもまだ決まっていない。当然、今日お出でのみなさんは、ある程度、そういう青写真が出来ているだろうと、それを聞きに来られたのではないかと思うのです。しかし、本当に申し訳ないですけれども、あと、３、４ヶ月もすれば、何とか青写真が出来そうだということなのですから、まあ、はっきり言ってですね、先ほどの中島委員長のご尽力でですね、財団法人吉田茂国際基金から２億円を超えるお金が寄附される見込みがあるわけです。それに、今、みなさん方からいただいたお金、それを合わせて約２億６千万円のお金がですね、再建のために貯まる見込みがあるのです。しかし、どうせ造る以上は、中途半端なものを造るよりは、何とか将来の大磯町に、ああと言えるようなものを造ろうと、みなさんご承知のように、滄浪閣が老人ホームになってしまいますね、国宝の如庵も名古屋に行ってしまいました。大磯町には大変な財産が一杯ありましたが、どんどんどんどん失くしてしまっている。今こそ我々が一丸となって、ここで吉田邸を再建したいと思います。議員はお金を出せと言われている。正直言って。議員はお金を出すべきだろうと。しかし、残念ながら、今の法律の下では、申し訳ないけれども、議員が吉田邸には直には出せない。ただ、出せないからやらないんじゃないよと、今、一生懸命、何か方法はないのかと、そういう中で、国の法律に抵触しない形で何か協力できないのかという事については、町長と一緒に検討するこ

とにしております。決して議会がお金を出すのが嫌だとか、反対ではなくて、我々としてはですね、１日も早く青写真を作って欲しいというのが本音なので、是非ね、色々な誤解が出ておりますけれども、その辺のところは十分にご理解いただきたいと思います。突然出てきてすいません。

（町長）

今、これまでの経過のお話をいただきました。そして、焼失後、町長も、議員も、本当に今まで、ある意味では遅かったと思います。本当は、早く先頭に立って、法的なものをクリアすべきであると。一つの考え方として、今、町長が、こういう形をとれば出せるという事の確認をしているところです。まだ、きちっとした回答はいただいておりませんが、まず、私からは出せる。議員の方々も検討に入っております。

みなさまに訴えていく事。それは、今まで、本当にその説明をしてこなかった事。これは、我々が悪いと思っております。そして、今一つ、はっきりとした形のないもの、本当に金額の当ての無いものにどのように出していけるのか、思いは全くその通りであります。

形としまして、Ｌ字型。およそ、あの場所に、本当に価値のある形で建って、吉田茂元総理がお造りになった金の間、銀の間、玄関、食堂、応接間棟を、やはり後世に遺し、ここで日本の歴史が動いた場所として遺すべき価値がある。これは、先ほどの県の委員会の専門の先生方、学識経験者の方が提言された事。これだけは少なくとも遺さなくてはいけない。そういうものを造りたいということであります。

その金額については、どういう材料を使えるか、私たちが、本当に最後まで努力して集めた金額で、これで、県にやっていきましょうとお話するために、この３月３１日で第一期の募金活動が終わるわけですから、今一歩努力していきたいということで、この説明会で申し上げたわけであります。遅れていることは、確かにご指摘のとおりであります。よろしいでしょうか。

（Ｂ氏）

ちょっとお尋ねしたいのですけれども、再建は結構だと思うのですが、その前に火災の原因が不明だということですけれども、原因は何だったのでしょうか。

もう一つは、私には、急ぎすぎているような感じを受けるのですが、火災の原因を、再建する大前提として、どういう経緯だったのかお聞かせいただきたいと思います。

（政策課長）

火災の原因につきましては、警察と消防が入りまして、数日間に渡って調査した結果、原因不明という結論に至ったところでございます。

（Ｂ氏）
不明というのは、漏電とか、いろいろなケースを含めてということですか。

（政策課長）
こういうことが原因で火事がおきたという事が、特定できなかったということでございます。

（Ｂ氏）
そうしますと、仮に放火みたいなものがあったとすれば、それに対する対策というのは当然とられるものなのでしょうか。

（政策課長）
危機管理ということですが、現行の法律も色々と厳しくなっておりますので、想定した建築をして、なおかつ管理をしていかねばならないと認識しております。

（Ｂ氏）
火災の原因が不明ということを置き去りにしたまま、この計画を急いで進めているような印象を受けてしまうのですけれども、もう少しゆっくり進めていくのがよろしいのではないでしょうか、というのが、私の個人的な意見でございます。

（町長）
十分な時間をかけて、警察も、消防も検証をしたと思いますし、県の方でも、重要な建物を再建するにあたり、それに対する十分な防火設備、そういうものは配置されると、せねばならないと、そういう条件がつく筈であります。

（Ｃ氏）
私も、今日参加するにあたり、いろいろ考えておりましたが、何故盛り上がらないのかということであります。町長、最大の要因は何だとお考えでしょうか。

（町長）
それは、私思いますに、はっきりとした情報といいますか、今までの経緯をみなさまに、そして基金を設置する時に、こういう事というのをお話してこなかった、その経緯であろうと思います。

（Ｃ氏）

私は、そういう事を申し上げているのではなくてですね、全国津々浦々、再建築がされている。あるいは、元の姿に復元されている施設がございますね、吉田邸の再建が何故盛り上がらないかというと、この土地に生まれた人ではないという事なのですよ。分かりますか。養子として入られたどうかはともかくとしてですね、ある時期ここに住んでいたという事だけなのです。それが主たる要因なのですよ、よく考えてみてください。まあ、その他に、今町長が仰ったような事もあるのでしょう。あるいは、この景気状況下で、先行き１０年、２０年という長い目で見た時にですね、こんなものが本当に必要なのかと、こういうところがない混ぜになって、再建というものが盛り上がらないのですよ。ただし、申し上げたように、主たる理由は、あくまでも、地元の人ではないということだと、私は思うのです。

そうした中でですね、吉田さんの歴史的な貢献だとか、あるいは住まいが歴史的な価値があるかとか、などなど、理念といいますか、そういうことを美しく述べられます。述べられますが、それだけでは、生活している一般の町民としては、やっていけないわけで、ある中でどうやって、ある中でというのは、資金面で許される範囲内で、どのような建築物を、建てないということも含めて、あるいは、愛蔵品などは郷土資料館も利用できないのか。極端なことを言えば、吉田邸で遺すべきものは七賢堂だけだと私は思うわけです。それを事もあろうに、馬鹿の一つ覚えでもあるまいし、建っていたままのものをまた建てたいなどと言う事がですね、みなさんの心が離れていった要因だろうと私は思うわけです。

したがって、もう一度申しますが、あくまでこれは県の所有物なので、資金面では県に出していただきたいと思いますが、のみならず、今の大磯城山公園がそうであるように、この公園の利用というのはワンちゃんの散歩だけ。実際に来られて見学させる方もほとんどが大磯町以外の方。そのような事からしても、県の所有物である事と同様にですね、あくまで再建は県にお願いしたい。そう思っているわけですが、反面、先ほど申し上げたように、県の財政事情もそう余裕がある筈もなくですね、そう再建築にこだわる必要もないのではないかと私は思うわけであります。そっくりそのまま同じようなものを建てたいなどというそのお考えが、私にはよく分からないのです。しかも、お金がありませんと。

それなら、議員さんも日当制にでもしてですね、年間１人当たり３００万円位削減してくださいよ。そうすれば、町長と合わせて年間６，０００万円位の資金が捻出できるでしょう。ただ、それは、大事に大磯町の赤字解消に充てたいので、何も吉田邸に充てて欲しいとは思いませんが。

もう一度冷静に申し上げますとですね、大磯町以外の方の利用はかなり多いのだろうというふうに思われますし、元々は県の所有になった今ですね、あくまでも建てるというのであれば、県に協力を仰ぎたい。それで、建てるに当たってはですね、再建築に必ずしもこだわる必要はないのではないかと。私は七賢堂さえあれば良いのではないかというふうに思っているわけです。郷土資料館を増改築するなどしてですね、保管とかそういう見学

をする場合には郷土資料館に行っていただければ良いではないですか。しかも、国道を跨ぐ形で大磯城山公園と吉田邸はひとつの公園として一体管理されることになるわけです。ですから、何も別々にですね、吉田さんの方はこうです、城山公園の方はこうです、などとする必要性があるのでしょうか。その辺のところをもう少し効率化すれば、予算の削減にもなりますので、もう少しスリムな形で再建するような事も検討していただきたいと思います。

（町長）

ご意見ありがとうございました。

大磯町に生まれた方でないが故に、募金が集まらない。それが最大の理由であると仰いましたが、それは、人が各々何を誇りに思っているか。生まれたところ以外では、色々な人の評価というのは難しいでありましょうが、内閣総理大臣というのは、一国の首相であります。その方が何処に生まれましても、日本の誇りであるのではないでしょうか。私はそのように考えます。確かに、郷土を愛する人はここから出た人であらねばならぬ、というお考えもあるでしょう。私が、町長選に出た時に、大磯の方から聞かれたことがあります。お前はどこの出身であるかと。富山県とお答えしました。そしたら、ああそうかと言っておられましたが、大磯というところは、本当にこの地を愛する方が沢山いらっしゃいます。しかし、私は３０年大磯の住んでいまして、今、大磯を愛してあります。ご意見された方も私を大磯の人間として認めてくださっていると思いますし、本当に、私が後世に遺すために、日本の総理大臣として吉田茂さんを私たちの誇りにしていくことは、私は正しい道であろうと思いますし、考え方であろうと、そういうふうに思います。それから、吉田さんを偲ぶ品を郷土資料館にというお話がございましたが、確かにそれは良いでしょう。しかし、しかしであります。完全復元ではなくても、本日ご説明してきましたように、私たちが、今希望しているものの中に、それが、そこにあって空間的なイメージを子ども達が持つ。後世の方々がイメージを抱くことの意味は確かに大きなものがあります。全部入りきらない時には、そういう形もとらねばならないと私は思っております。

そのような考えを述べさせていただきました。あと少しまた整理して、お話する機会があれば、いろいろお話させいただきたいと思います。ありがとうございます。

（Ｃ氏）

大体、どこも同じような傾向があるのだろうというように感じます。

大体２年先行でやって、後は借金だけが残る。綺麗事では我々現実問題飯は食っていけないのですよ。おやりになる方は、自分の任期の時にこんなものを成し遂げましたと誇らしげに言うのでありますが、その後残るのは財政赤字だけ。というふうになるわけですから、安易にぐちゃぐちゃ仰っていた先ほどの議員さんもおられますけれども、在任中にこういうようなものを成し遂げたとか、後世に自分の名前を残したいとか、そんなふざけた

考えはもたないでいただきたい。

要はですね、資金というものの裏付けなくして、こういう開発、あるいは計画というのは出来ないわけですよ。それを無理して今までやってきたが故にですね、後々借金だけが残ってきたということで、今日こんなに困っているわけです。

だから、与えられた条件の中で、与件の中でやる。しかも、できるだけ県にやっていただくということでお願いしたいと思いますよ。

それと、私個人が吉田さんをどうこう思っているという事ではなくて、私はむしろ歴史人間だと思っていますから、いろいろ歴史についてはよく知っていると思っていますが、どうも大磯町のみなさんの根幹の部分がそこにあるのではないかなと思うわけです。

要するに、この土地に生まれて育ったわけではない。よそから来られて総理大臣になられましたけれども、その辺の微妙な部分というのが、再建の取組みに対する意欲に影響しているのではないかなというように私は考えているわけで、私が個人的に吉田さんをどう思っているかということではありませんので、誤解のないように一つお願いします。

（町長）

はい。ご意見として伺っておきます。

（Ｄ氏）

２点ほど伺いたいと思います。

まず、１点目でございますが、先ほど県の土木事務所長さんのご説明で、散策路の話が出ましたけれども、散策路というのは、現在ある庭の散策路を整備するだけなのか。それとも新たな散策路を造っての整備なのか、それをお聞きしたいのが一点。

もう１点は、今の募金額のうち、町内からはいくら集まっているのか金額を教えていただきたいと思います。

（平塚土木事務所長）

散策路についてご説明しますが、今、旧吉田茂邸の中には細かい散策路がありますけれども、これは活かす形でございます。けれども、現在ある地形を活かした形で整備しようと思っておりますので、そうなりますと、やはり起伏があります。そうしますと、例えば、お年寄りの方などが上りづらいという事にもなりますので、新たに幅３ｍ程の散策路を大体トータルで３００ｍほど整備していく予定です。

メインの散策路の周辺に細かい散策路、幅１．２ｍほどですけれども、これについても２００ｍくらい整備しまして、今よりも歩きやすい散策路になるという予定であります。

以上でございます。

（都市計画課長）

基金でございますが、２月１５日時点で総額が５，７８５万円でございます。このうち、町の方からいただいた納付書によるものと、募金箱によるものが３，４００万円ほどとなっております。

以上です。

（Ｅ氏）

庭園の整備につきましては、土木事務所長さんからのご説明で、工程表も出ていてよく分かりました。建物については、県としてはどのように捉えているのでしょうか。建物については土木事務所ではなくて異なる部署になるのではないかと私は思うのですが、県としてはどういうふうに考えているのか、その辺の状況のお話もあるのではないかと思って今日伺ったのですが、現在どういう計画になっているのかお聞きしたいと思います。

（平塚土木事務所長）

先ほどの説明にありましたように、焼失前は、県が旧吉田茂邸の寄附を受けて、管理は大磯町さんでというスキームで来ましたけれども、不幸にも焼失してしまったということで、現在どういう形で誰が建てるのかも含めて最終決定をしておりません。そういう中で、いろいろな学識経験者が入った委員会を設けながら検討してきて、その中間とりまとめという形が、先ほど紹介された形であります。

歴史的・文化的な面、日本庭園から見た景観を踏まえますと、最大のマックスの形がＬ字であろうというような中間とりまとめがされております。

建物の材質ですとか、そういうものによって全然費用が異なってまいります。そこはまっさらの状態で、今、浄財を集めていただいている状態でございまして、浄財が集まる多さ、またその金額がどのくらい集まるのかによって、それに対応するものがどのくらいになるのか、材質をどうするのか、それは今後の事だと思っておりまして、そういう中で、県の考えはどうかと聞かれましても、今、中間報告で出されている範囲が一番マックスの形ではないかというように私どもは考えているところでございます。

以上でございます。

（Ａ氏）

町は募金をこれからどうやって集めていこうとしているのでしょうか。今まで通りだったらほとんど集まらないと思います。盛り上がっていたのが盛り下がってきて、それに慣れてきてしまっている状態なのですから。では、事務局としてこれからどうやってみなさんにお願いしていこうとしているのか、何か方策を練っているのですか。

（町長）
今、考えております。

（Ｆ氏）
先ほど、町長さんは、選挙の公約でこの吉田邸再建を掲げていたという事を仰いましたが、前の町長の場合に、公約で民間活用を図ると仰っていた事が理由となって、万台こゆるぎの森が国際学園に貸与されて、もともと町民が自由に使って私共が下草を刈るなどの管理をしていたわけですけれども、結局自分の手の届かないところになってしまった。そういう経験を踏まえますと、公約をなさって選挙で当選されたからという事で、特に力を入れていこうと思っていらっしゃると思うのですけれども、具体的に、町のお金を動かすことも可能であるとお考えになっておられるのでしょうか。それとも、単に今までどおり募金を続けていこうとしているのか、具体的に何を考えておられるのかもう少し詳しく伺いたいと思います。

（町長）
町のお金につきましては、今までやってきた事を申し上げさせていただきます。

（政策課長）
町のお金につきましては、議会の議決を経て、平成２１年度に５００万円、平成２２年度に５００万円ということで、合計１，０００万円を基金に積まさせていただいております。

（町長）
以上が、これまでの町のお金としての経緯であります。私が、今日みなさまにこういう説明会を開いて、ではどういう策があるのかということでありますが、これからも募金活動を続けて行く所存であります。現在、町内から、納付書によるもの約４５０件、募金箱によるもの、推計ですが約１万件寄せられております。町側として、これを引き継ぎ、今後の募金といいますか、再建の費用を調達していく所存であります。

（Ｆ氏）
５００万円ずつ２回出したというのは、予算を措置して基金に町のお金を入れたということでしょうか。

（政策課長）
その通りでございます。

（町長）

予定されていた時間を過ぎて大変申し訳ありませんが、折角みなさまが集まっていただき、その中で、町の方向性として、みなさまに是非ともお願いしたいということで、色々なご意見がございました。

沢山の方が、この旧吉田茂邸の再建についてのご意見をお持ちであるのは当然であります。

しかし、色々なコンセプト、私が綺麗事を言っているとのご批判もございましょう。しかし、思いはみなさまとて一緒だと、私は思います。

是非、お力を貸していただき、進めていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

１件１件のお宅をまわるというのはなかなかに至難の事と思いますが、みなさまの輪を広げていきたい。それを信じていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

本日は、どうもありがとうございました。

※　説明会において使用したスライドについては、添付資料をご覧ください。